

# 原子力発電所の環境放射能測定結果

(平成30年度 第2四半期)

(案)

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 目 次

第1	測定結果の概要	1
第2	測定項目	9
第3	測定方法	13
第4	測定結果	17
1.	空間放射線	17
2.	環境試料	19
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	22
	福島第一原子力発電所	
1.	空間放射線	22
2.	環境試料	24
	福島第二原子力発電所	
1.	空間放射線	27
2.	環境試料	29
	添付資料	
	原子炉運転状況、放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ	32
	福島第一原子力発電所	
	原子炉運転状況	33
	放射性廃棄物管理状況	34
	試料採取時の付帯データ	37
	福島第二原子力発電所	
	原子炉運転状況	40
	放射性廃棄物管理状況	41
	試料採取時の付帯データ	43
	空間線量率等の変動グラフ	46
	〈参考〉地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の評価	69
	〈参考〉福島第一原子力発電所敷地境界近傍ダストモニタ指示値	74

## 第1 測定結果の概要

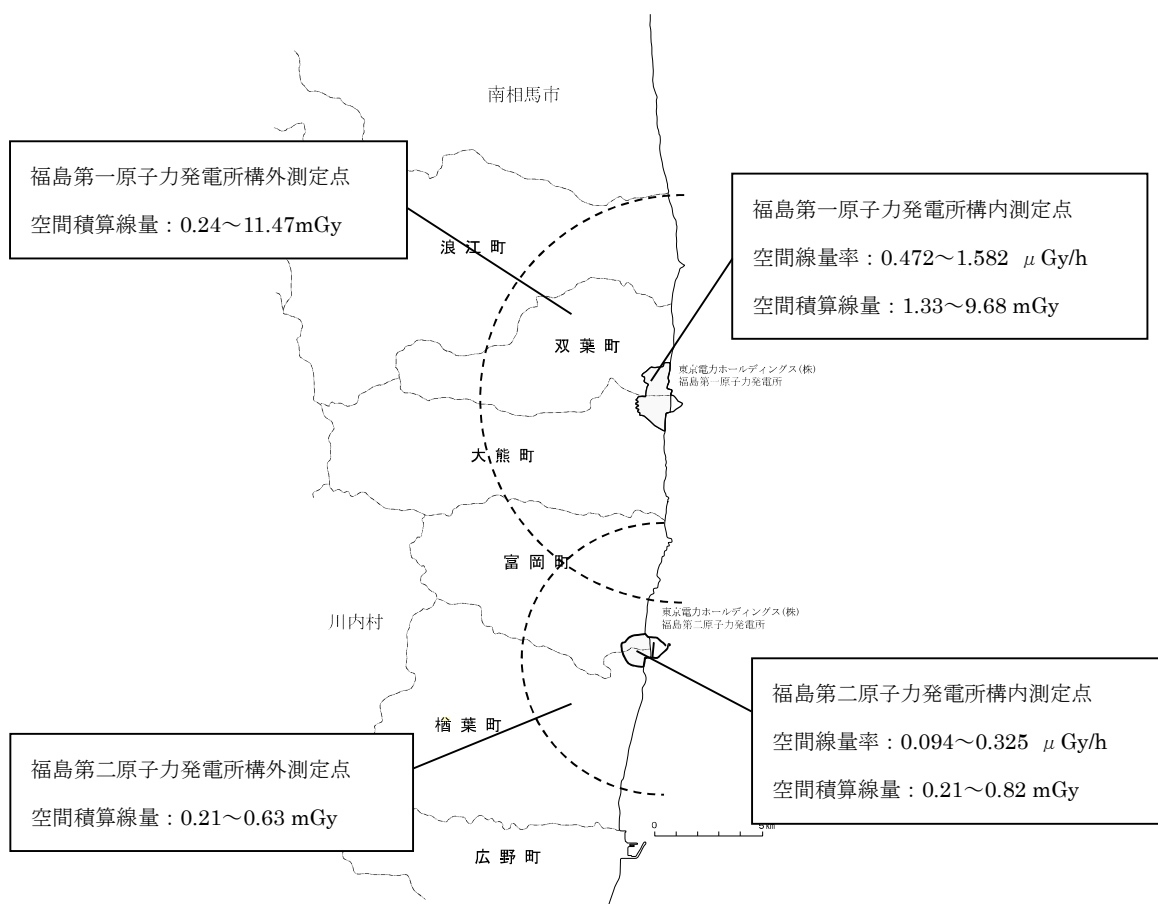
東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が、平成30年度第2四半期(7月～9月)に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率や環境試料については、事故前の測定値の範囲を上回っておりますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

### 1 空間放射線

○空間線量率については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値(月間平均値  $0.094\sim 1.582\ \mu\text{Gy/h}$ )は、事故前の測定値の範囲(月間平均値  $0.031\sim 0.049\ \mu\text{Gy/h}$ )を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

○空間積算線量(90日換算値)については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値( $0.21\sim 11.47\text{mGy}$ )は、事故前の測定値の範囲( $0.10\sim 0.16\text{mGy}$ )を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

※今期の空間線量率及び空間積算線量の範囲



## 2 環境試料の核種濃度

- 大気浮遊じん、海水、海底土、松葉について、福島第一原子力発電所で13試料、福島第二原子力発電所で13試料、核種濃度の調査を実施しました。

福島第一原子力発電所については、すべての試料から、事故前の測定値を上回るセシウム-134, 137 が検出されましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期と比較すると、松葉、大気浮遊じん、海水、海底土は、測定値の変動はありますが、概ね横ばい傾向にあります。

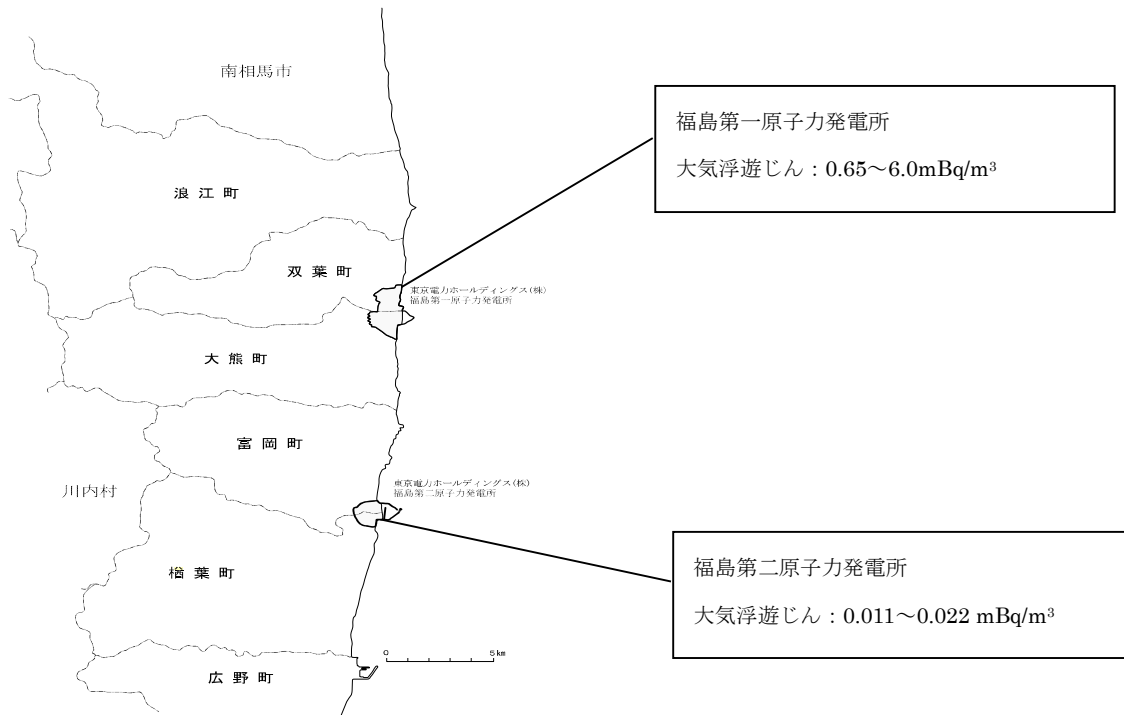
福島第二原子力発電所については、すべての試料から、事故前の測定値を上回るセシウム-137 が検出され、大気浮遊じんと海水、松葉の一部を除く試料から、事故前の測定値を上回るセシウム-134 が検出されましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期と比較すると、すべての試料で概ね横ばい傾向にあります。

- 海水について、福島第一原子力発電所の3試料及び福島第二原子力発電所の3試料でトリチウムの調査を実施しました。

福島第一原子力発電所については、3試料のうち北放水口の1試料から検出されましたが、事故前の測定値と同程度の値にあります。

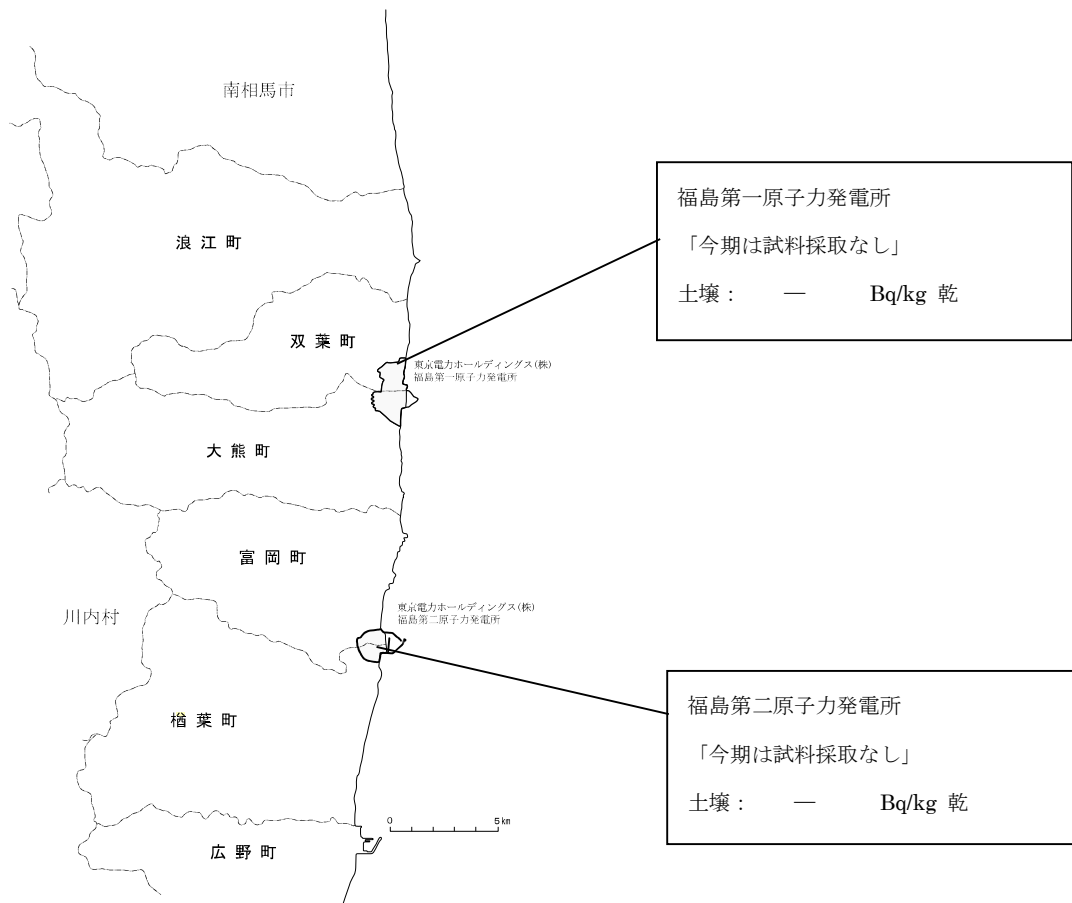
福島第二原子力発電所の全ての試料から、トリチウムは検出されませんでした。

### ※今期の大気浮遊じんのセシウム-137 の範囲

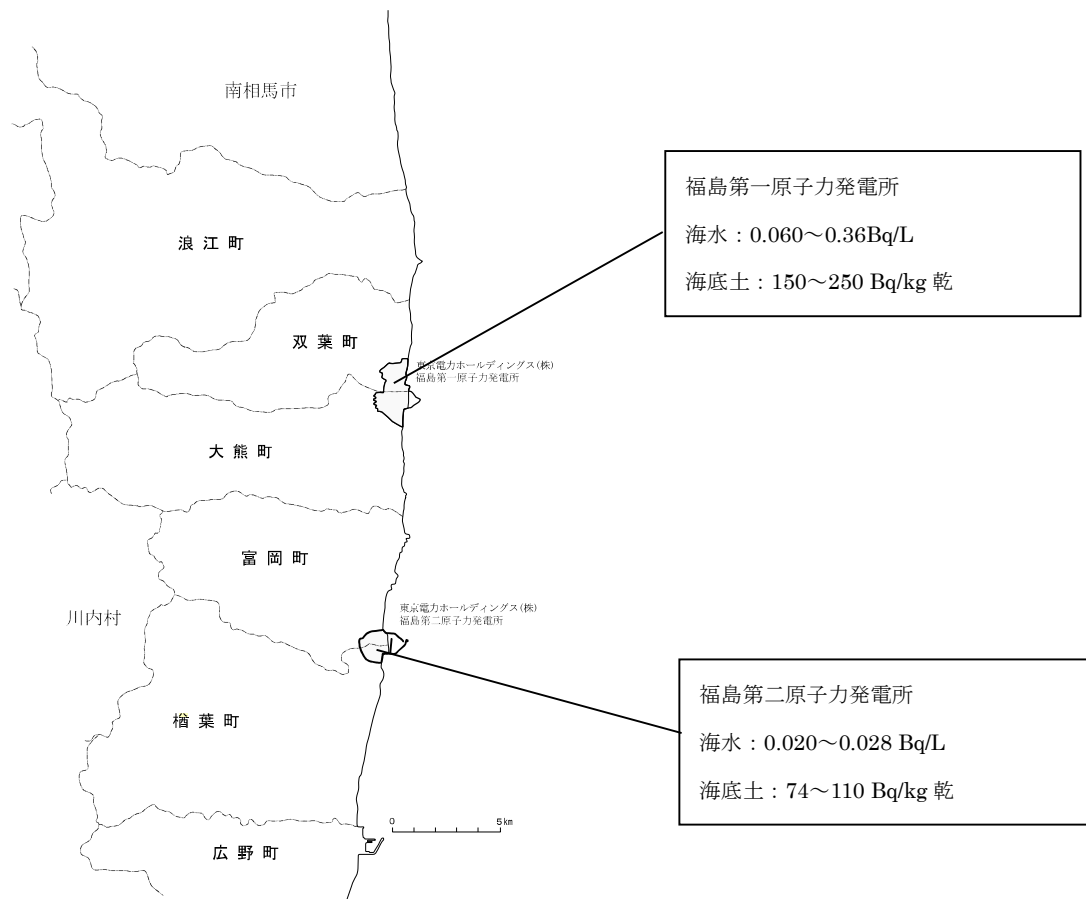




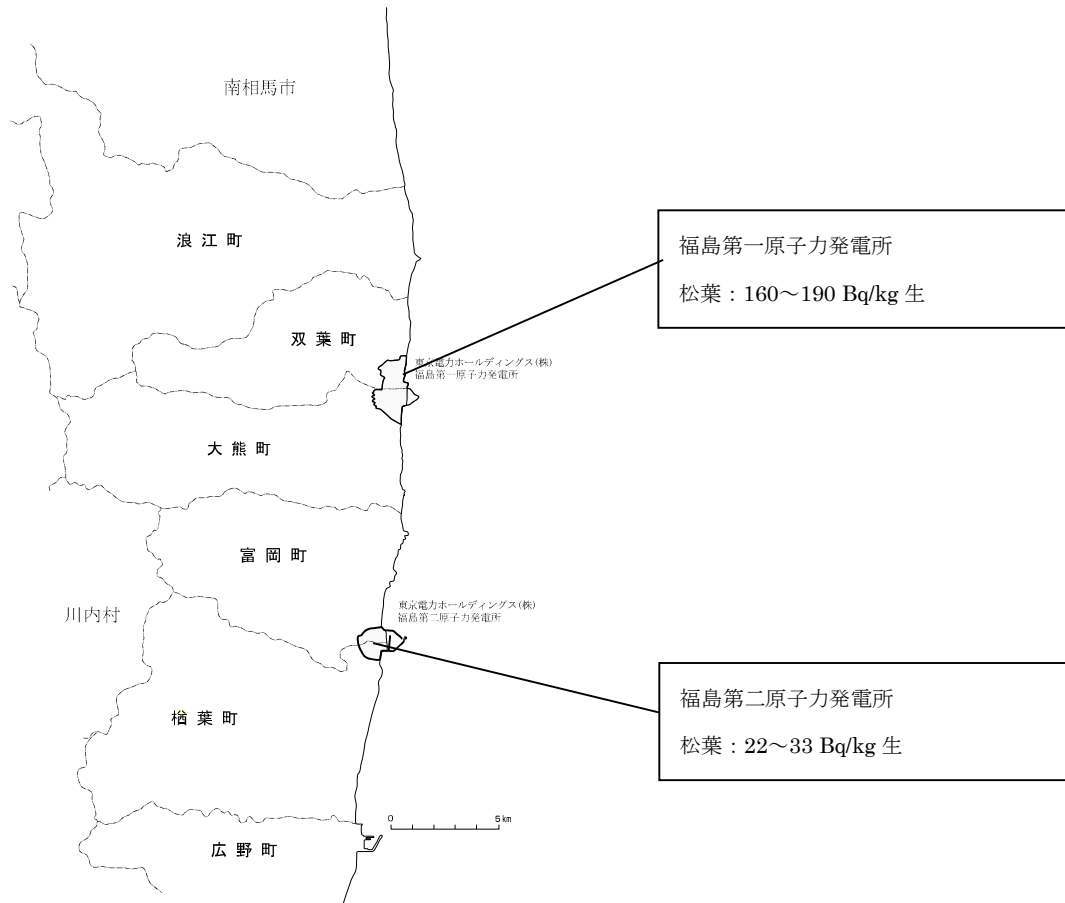
※ 今期の土壌のセシウム-137 の範囲



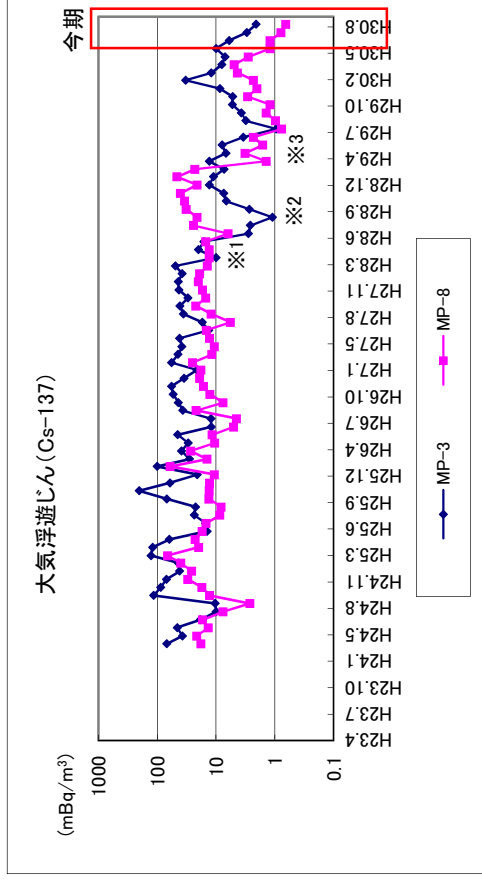
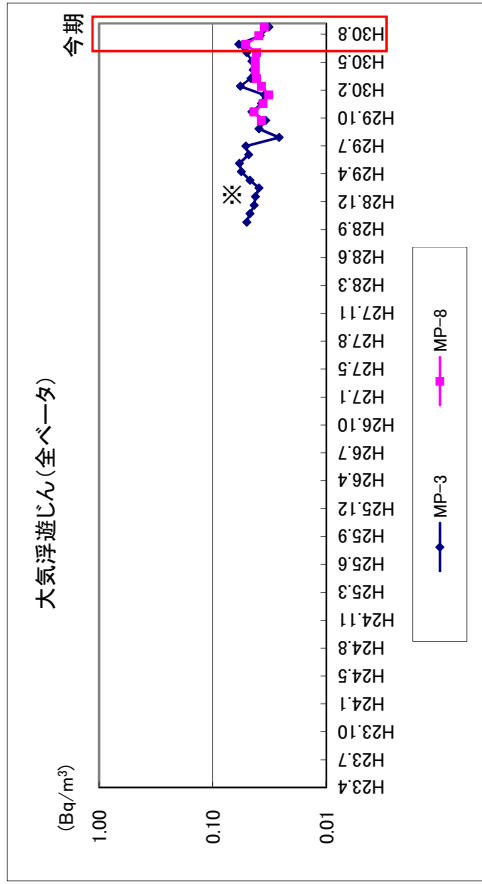
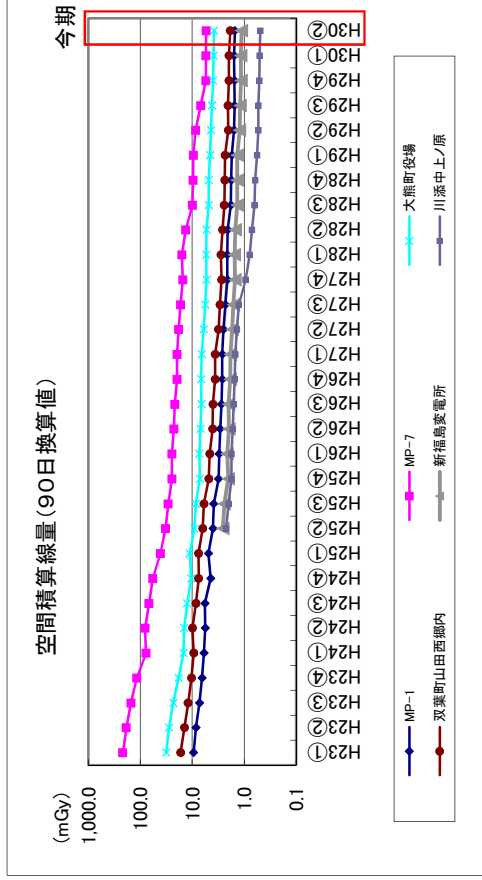
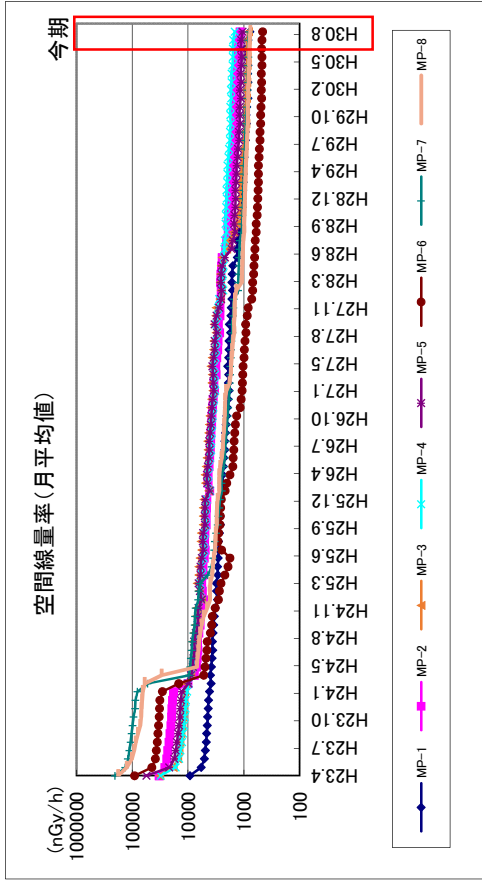
※今期の海水及び海底土のセシウム-137 の範囲



※今期の松葉のセシウム-137 の範囲



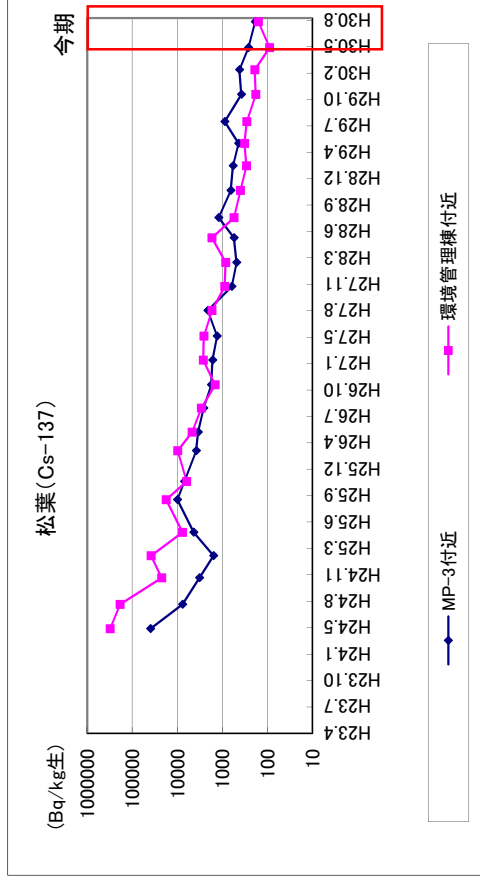
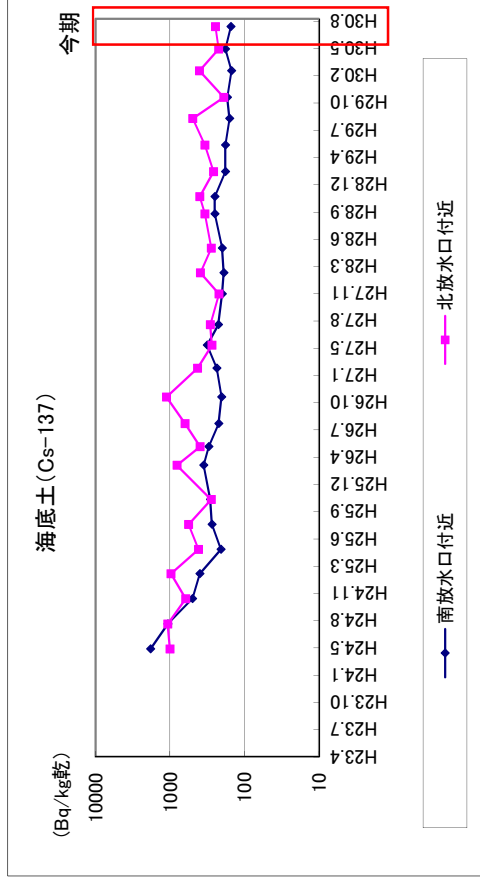
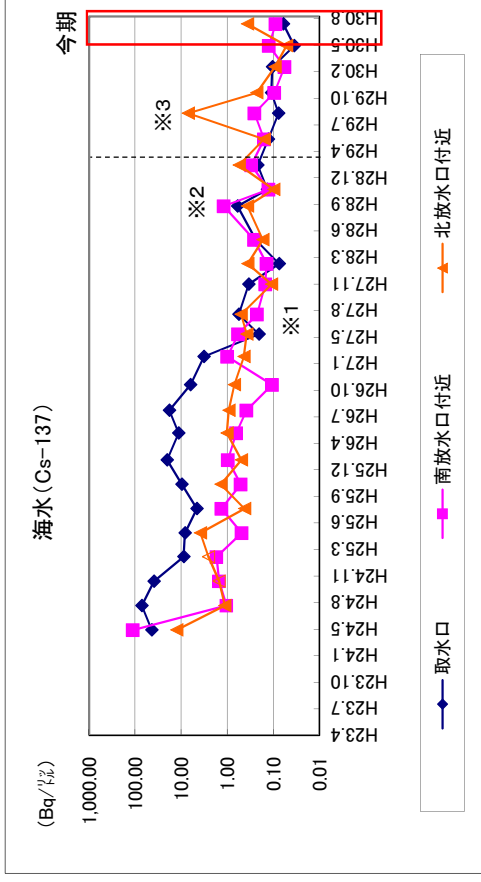
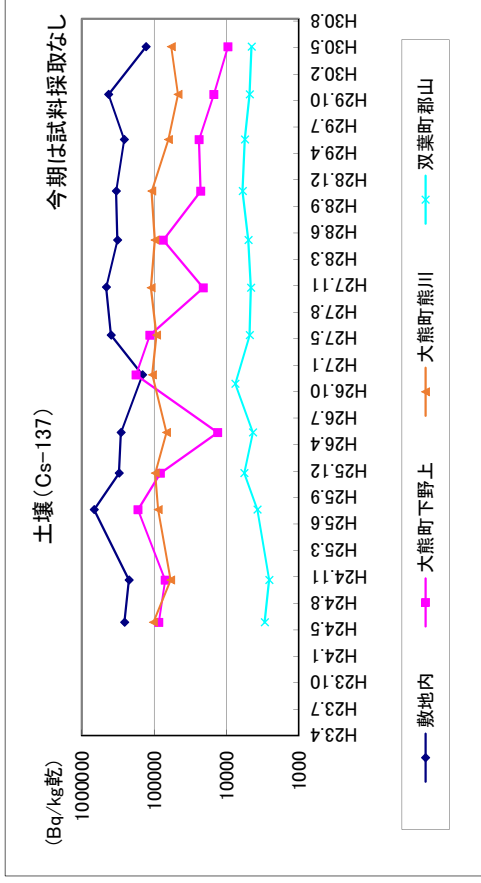
# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/2)



※:MP-3は H28年10月より、MP-8はH29年10月より運用測定開始した。

※1:MP-3で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H28年3月完了)  
 ※2:降雨により地表面からの大気浮遊じんの拡散が抑制されたことによる低下  
 ※3:MP-8で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H29年3月完了)  
 注):機器本体や配管の除染・取り替えまでの期間は、事故時に付着した放射性物質が徐々に剥離し、検出部で計数された影響で大気浮遊じん濃度が高く推移したものと推測した。

## 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/2)



・白抜きのプロットは検出限界未満であるため、検出限界値をプロットしている。

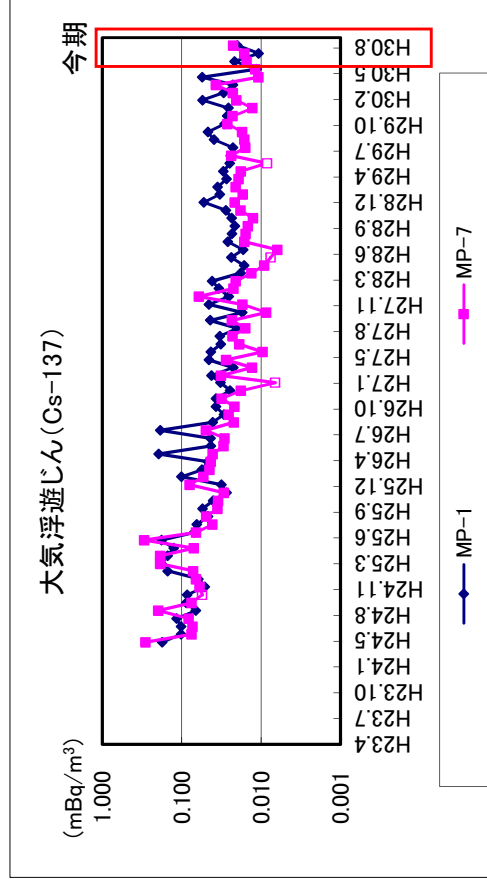
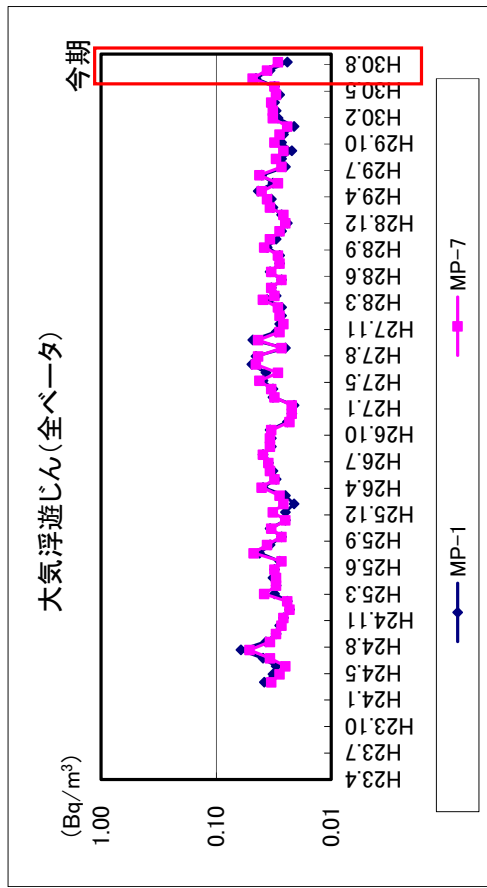
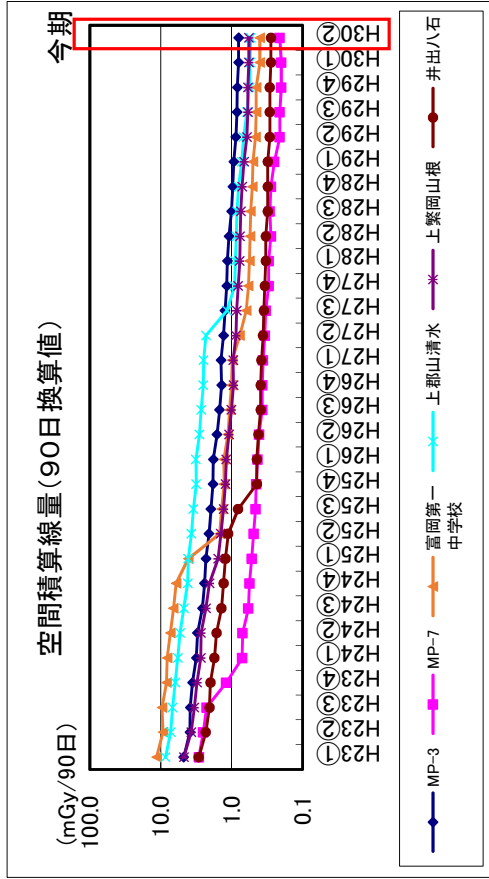
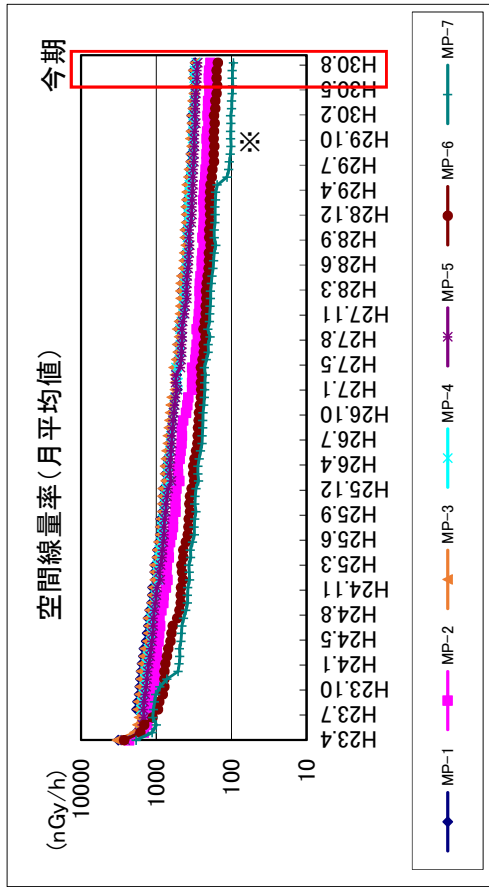
・海水については、事故後は緊急時の簡易法の分析で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。

※1: 取水口・採取地点変更(港湾中央→港湾口: H27.5)

※2: 海水については、前回数より上昇が見られますが、試料採取日の前日までの降雨に伴う影響と考えます。(H28.9)

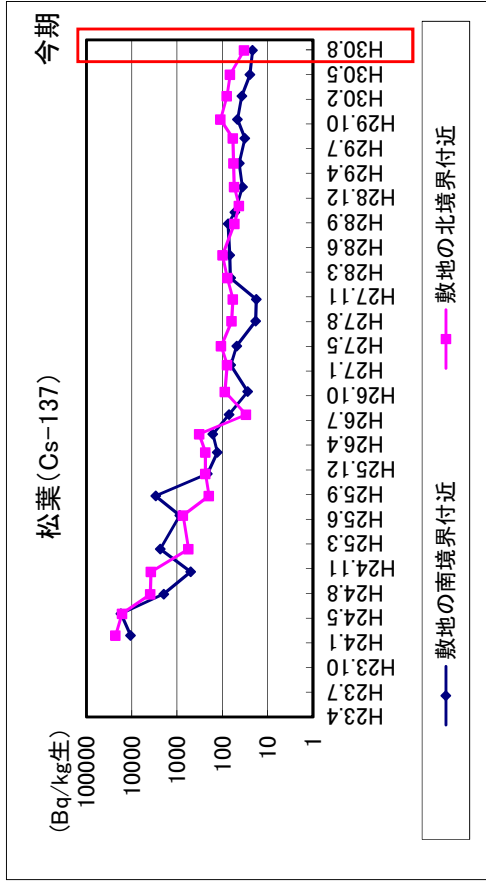
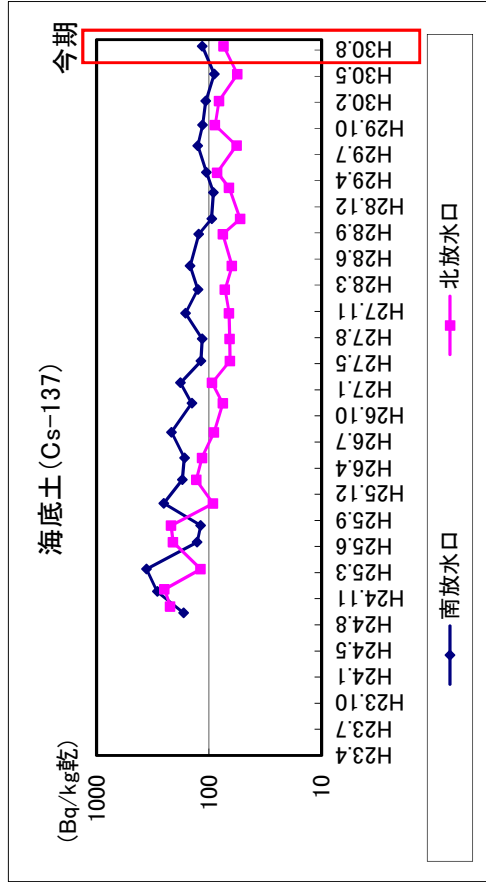
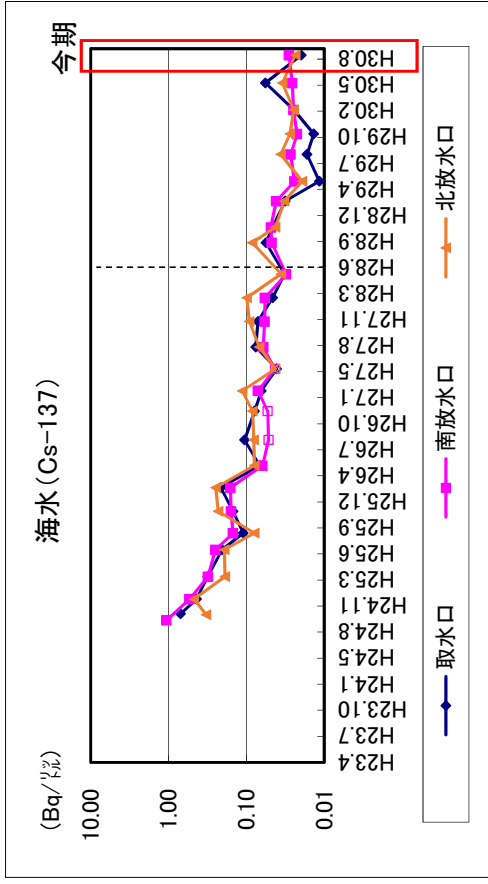
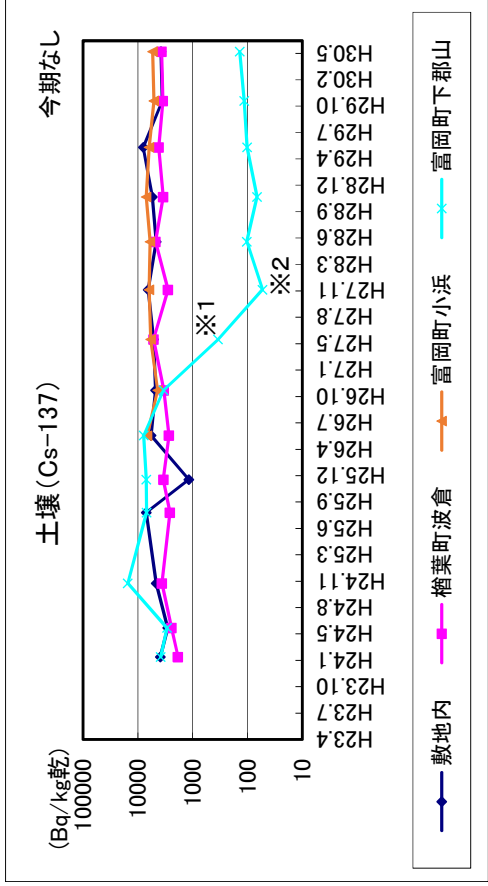
※3: 海水については、前回数より上昇が見られますが、試料採取日の当日の降雨に伴う影響と考えます。(H29.8)

# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/2)



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ※: MP-7へのアクセス道路及び法面の造成工事による減少。

## 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/2)



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。

・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。

※1: 除染作業に伴う、表土剥ぎ取りによる減少。

※2: 表土剥ぎ取り後の盛土による減少。

## 第 2 測 定 項 目

### 福 島 第 一 原 子 力 発 電 所 測 定 分

(平成30年7月～平成30年9月)

1 測定項目

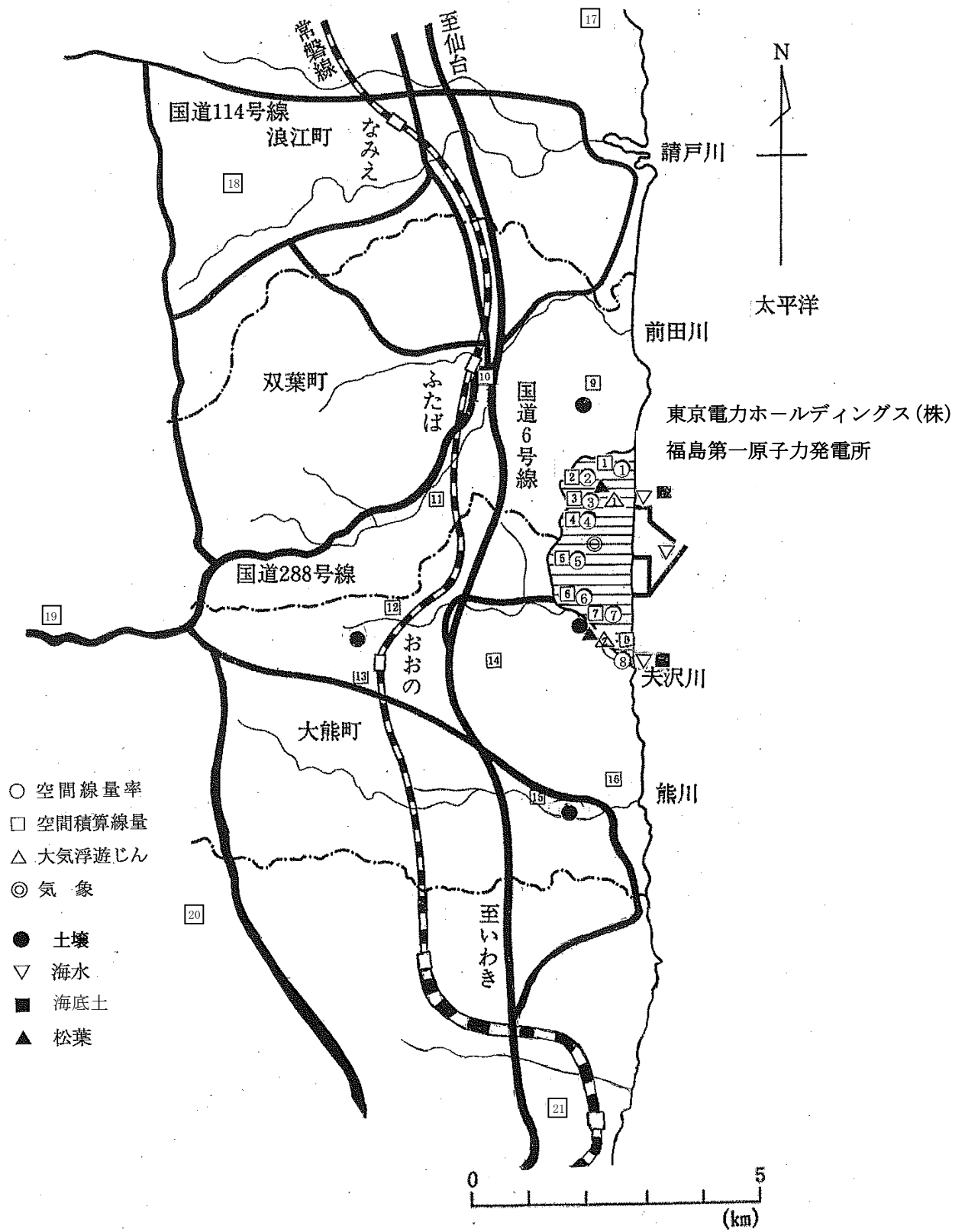
(1) 空間放射線

項 目	地点数	測 定 頻 度	実施機関
空 間 線 量 率	8	連 続	東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
空 間 積 算 線 量	21	3カ月積算	

(2) 環境試料

区 分	試 料 名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測 定 試 料 数						実施機関	
					γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am		<sup>244</sup> Cm
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6							東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
海 水	海 水	3	年4回	1	3	3						
海 底 土	海 底 土	2	年4回	1	2							
指 標 植 物	松 葉	2	年4回	1	2							

# 福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図





## 福島第二原子力発電所測定分

(平成30年7月～平成30年9月)

### 1. 測定項目

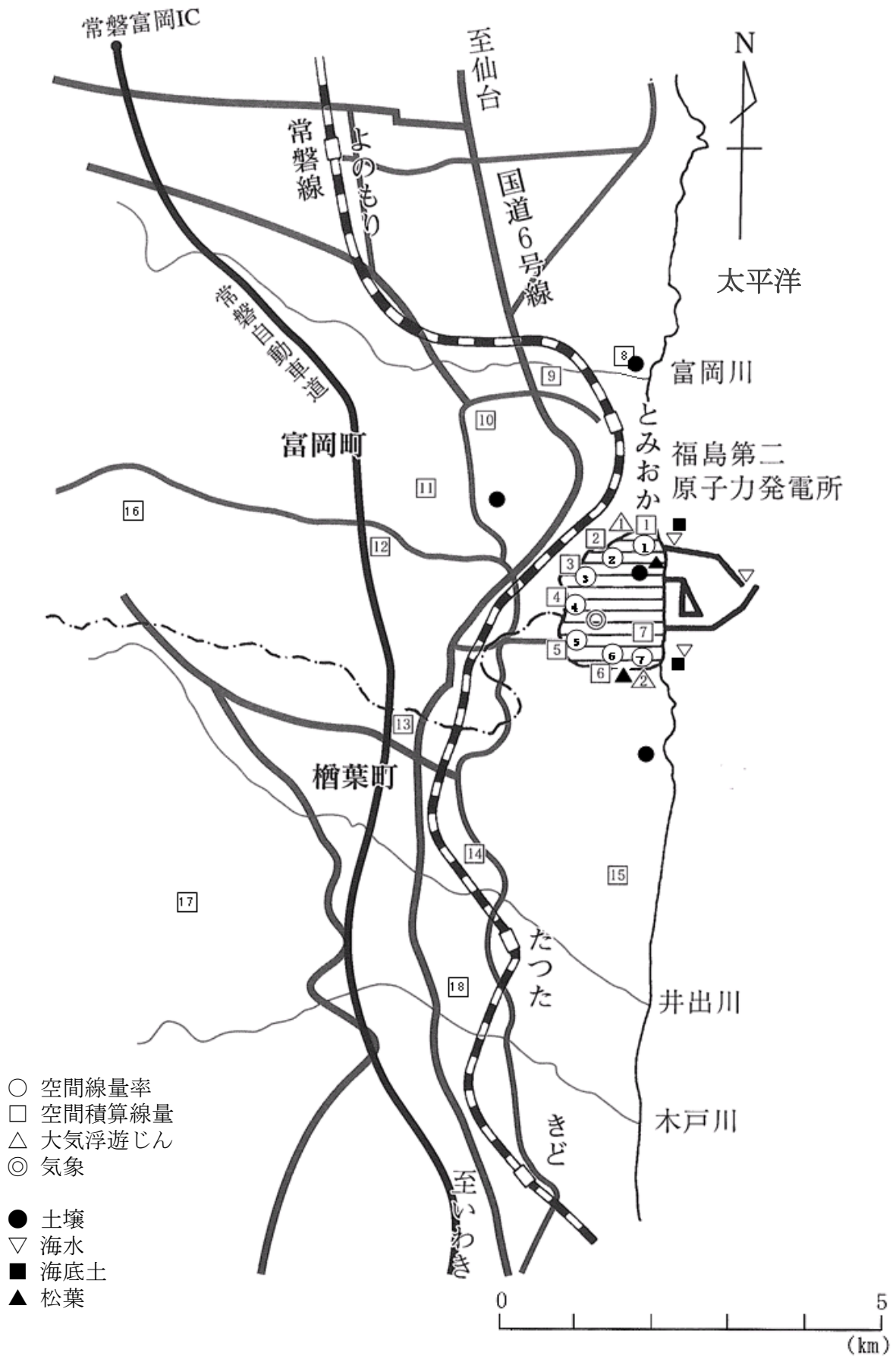
#### (1) 空間放射線

項目	地点数	測定頻度	実施機関
空間線量率	7	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所
空間積算線量	18	3カ月積算	

#### (2) 環境試料

区分	試料名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測定試料数						実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$		$^{244}\text{Cm}$
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6							東京電力ホールディングス (株) 福島第二 原子力発電所
海水	海水	3	年4回	1	3	3						
海底土	海底土	2	年4回	1	2							
指標植物	松葉	2	年4回	1	2							

福島第二原子力発電所 環境モニタリング地点図



### 第 3 測 定 方 法

福島第一原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (富士電機, 高純度アルゴンガス8気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Ra-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気浮遊全アルファ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータのほり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 、Am-241
	核種濃度	Ge半導体検出装置 ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch)) 測定法：文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析
	アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析

福島第二原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (富士電機, 温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137及びRa-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気中のアルファ及びベータ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS (Ag) シンチレータとプラスチックシンチレータの はり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub>
	核種濃度	Ge半導体検出装置 ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂) 大気浮遊じんは, 1ヶ月の集じんろ紙を全てU8容器に入れ測定。 土壌, 海底土は, 乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は, 生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガ ン共沈法で処理後測定。 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型 他9台) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch) 10台) ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：Aloka LBC-420, LBC-420B 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性プルトニウム分析法」 のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析
	アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「放射性アメリカシウム分析法」 のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析

**環境試料放射能測定方法詳細一覧表**  
**(Cs-134、Cs-137濃度・トリチウム濃度・ストロンチウム-90濃度)**

項目	試料名 核種	大気浮遊じん			土壌			海水		
		Cs-134、Cs-137	Cs-134、Cs-137	Sr-90	Cs-134、Cs-137	H-3	Sr-90			
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置:地表上約3m	採取は採取器などを用い、裸未耕土の表面深さ(0mmから50mm)から一地点あたり5~6箇所より、採取する。		採取地点で表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、2Lポリ容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。			
	採取容器等	ろ紙(HE-40T)	採土器	採土器	キュービテナー	ポリビン	キュービテナー			
	採取量	11,000m <sup>3</sup> 程度	福島第一:0.5kg程度 福島第二:3kg程度		40L	2L	40L			
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。	福島第一 採土器を地点毎に用意し、使用している。 福島第二 採土器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	福島第一 採土器を地点毎に用意し、使用している。 福島第二 採土器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。			
前処理	方法	1ヶ月分の集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、U8容器に収納する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンの共沈法	減圧蒸留法	イオン交換法			
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	50φミリの円の中心から47φミリを打ち抜き、88.36%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	震災前と変更なし	震災前と変更なし	震災前と変更なし			
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・打ち抜きに使用する器具は、地点ごとに分けて使用している。 ・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料の処理前に、使用する器具の洗浄と乾燥を実施している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。			
	測定装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置			
測定	測定試料状態	生	乾土	鉄共沈物	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレーション混合物	鉄共沈物			
	測定容器	U8容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	100mlバイアル	ステンレス皿(25mmφ)			
	供試料量	測定吸気量:約90m <sup>3</sup> /6h (ろ紙枚数:約124枚)	約100g	100g	約30L	50ml	40L			
	測定時間	80,000秒	福島第一 (敷地内) 1,000秒 (その他) 3,600秒 福島第二 3,600秒	3,600秒	80,000秒	30,000秒	3,600秒			
	測定下限値	福島第一 Cs-134:0.0071~0.025mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0071~0.021mBq/m <sup>3</sup> 福島第二 Cs-134:0.0062~0.0084mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0057~0.0080mBq/m <sup>3</sup>	福島第一 Cs-134:15~250Bq/kg乾 Cs-137:11~210Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:4.0~15Bq/kg乾 Cs-137:4.3~13Bq/kg乾	福島第一 0.19~0.21Bq/kg乾 福島第二 0.17~0.19 Bq/kg乾	福島第一 Cs-134:0.0014~0.0056Bq/L Cs-137:0.0012~0.0048Bq/L 福島第二 Cs-134:0.0013~0.0015Bq/L Cs-137:0.0013~0.0014Bq/L	福島第一 0.33~0.37Bq/L 福島第二 0.35Bq/L	福島第一 0.0067~0.0016Bq/L 福島第二 0.0064~0.00068Bq/L			
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。			
	使用線源	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	H-3	Sr-90			
校正		日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。								
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー点検時に密封線源にて効率確認。			
	BG測定頻度	福島第一 1回/週 50,000秒 福島第二 1回/週 200,000秒	福島第一 1回/週 50,000秒 福島第二 1回/週 200,000秒	測定の都度	1回/週200,000秒	測定の都度	測定の都度			
備考	【福島第一】 平成29年9月より測定時間変更(3600秒→8000秒)	【福島第一、福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成28年第1四半期より前処理を再開(マリネリ)リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンの共沈法)	-	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開				

項目	試料名	海底土		松葉
	核種	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Cs-134, Cs-137
試料採取	採取方法	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。
	採取容器等	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋
	採取量	1kg程度	1kg程度	0.1kg程度
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし	なし	なし
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	採取地点毎に新品の袋に採取している。
前処理	方法	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	はさみを使用し、細かく切断しU8容器に収納する。 (灰化せず生状態で測定)
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。 (インクリメント縮分法)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。 (インクリメント縮分法)	採取した約100gの松葉から、U8容器に40gを分取している。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置
	測定試料状態	乾土	鉄共沈物	生
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器
	供試料量	約100g	100g	約40g
	測定時間	80,000秒	3,600秒	10,000秒
	測定下限値	福島第一 Cs-134: 0.67~0.90Bq/kg乾 Cs-137: 0.65~1.1Bq/kg乾 福島第二 Cs-134: 0.60~0.69Bq/kg乾 Cs-137: 0.58~0.59Bq/kg乾	福島第一 0.17~0.18Bq/kg乾 福島第二 0.19~0.20Bq/kg乾	福島第一 Cs-134: 5.1~21Bq/kg生 Cs-137: 5.1~44Bq/kg生 福島第二 Cs-134: 4.0~4.3Bq/kg生 Cs-137: 4.0~5.3Bq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
校正	使用線源	Co-58.60, Mn-54, Ba-133, Cs-137 日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。 これによりトレーサビリティを担保している。	Sr-90	Co-58.60, Mn-54, Ba-133, Cs-137
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。
	BG測定頻度	1回/週 200,000秒	測定の都度	福島第一 1回/週 50,000秒 福島第二 1回/週 200,000秒
備考	【福島第一、福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開及び測定時間変更(3600秒→80000秒)	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一】 平成29年第1四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒) 【福島第二】 平成26年第3四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	

## 第 4 測 定 結 果

### 1. 空間放射線

#### (1) 空間線量率

東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所敷地境界 8 地点，福島第二原子力発電所敷地境界 7 地点で電離箱検出器またはNaIシンチレーション検出器により空間線量率を常時測定しました。

各地点の測定結果は以下のとおりです。

詳細な測定値は，福島第一22ページ，福島第二27ページを参照

#### ア. 月間平均値

各測定地点における月間平均値は，全ての地点において福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により，依然として事故前の月間平均値を上回っていますが，全体として年月の経過とともに減少する傾向にありました。

空間線量率の月間平均値

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値		
		7 月	8 月	9 月	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	479 ～ 1,582	472 ～ 1,554	462 ～ 1,461	475 ～ 4,893	1,785 ～ 204,134	31 ～ 45
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/129に減少					
福島第二原子力発電所	7	97 ～ 325	97 ～ 323	94 ～ 304	96 ～ 767	274 ～ 13,695	37 ～ 49
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/42に減少					

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は，  
H26～：平成26年度から前四半期まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日）まで。

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8 については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため，検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えています。

#### イ. 1 時間値の変動状況

各測定地点における 1 時間値は，降雨等の影響による変動があるものの発電所からの放射性物質の放出などに由来する変動はありませんでした。

また 1 時間値は，従来降雨により線量率の上昇があると考えられますが，事故以降の線量の高い点においては，降雨によって地表からの放射線が遮へいされることによる線量低下の方が大きいため，一時的に線量率が低下し，その後の地表面の乾燥に伴って降雨前の線量レベルにまで回復する変動が見られます。

なお，線量率の下がってきた地点においては，従来通りに降雨による線量率の上昇が見られます。

空間線量率の最大値（1 時間値）

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値		
		7 月	8 月	9 月	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	490 ～ 1,639	487 ～ 1,633	474 ～ 1,510	5,084	327,467	188
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/200に減少					
福島第二原子力発電所	7	105 ～ 338	105 ～ 340	106 ～ 317	795	182,000	162
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/535に減少					

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8 については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため，検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えています。

(2) 空間積算線量

今期間は、平成30年7月5日から平成30年10月4日までの91日間で、福島第一原子力発電所21地点、福島第二原子力発電所18地点で蛍光ガラス線量計（RPLD）により空気中の放射線量を測定しました。90日換算値は、全ての地点において事故前の最大値を上回る値が観測されました。

なお、事故以降は、年月の経過とともに減少傾向にありました。

詳細な測定値は、福島第一23ページ、福島第二28ページを参照

夫沢中央台地点においては、前期と比べ若干の上昇が見られますが、周辺の除染作業に伴う資機材等の撤去による遮蔽低減による影響と思われる。

単位：(mGy/90日)

機関名	測定地点数	積算線量 (平成30年7月5日～ 平成30年10月4日)	過去の測定値		
			H26～	事故直後	事故前
福島第一 原子力発電所	21	0.24 ～ 11.47	0.25 ～ 35.00	0.42 ～ 312.25	0.10 ～ 0.16
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/27に減少			
福島第二 原子力発電所	18	0.21 ～ 0.82	0.20 ～ 3.24	0.44 ～ 12.15	0.11 ～ 0.15
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/15に減少			

(注) 1. 「過去の測定値」は、

H26～：平成26年度から前四半期まで。

事故直後：事故後（平成22年度第4四半期）から平成25年度まで。

事故前：平成15年度第1四半期から事故前の平成22年度第3四半期まで。



## 2. 環境試料

### (1) 大気浮遊じん

福島第一原子力発電所のダストモニタ（2地点）については、機器本体及びダスト吸入配管等の取り替えが完了し、MP3地点は平成28年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始し、MP8地点については、平成29年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。

福島第二原子力発電所のダストモニタ（2地点）は、東日本大震災による津波で流失したため、平成24年度より測定器を更新して、大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。

各地点の測定値は、以下のとおりです。

詳細な測定値は、福島第一24ページ、福島第二29ページを参照

#### ア. 月間平均値

福島第一原子力発電所の月間平均値は、全アルファ放射能については事故前の測定値と同程度でした。

全ベータ放射能については、事故前の月間平均値を若干上回りましたが、周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響と思われる。

福島第二原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値の範囲内であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値		
			7月	8月	9月	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.021～0.027	0.015～0.017	0.012～0.014	0.006～0.025	※	0.014～0.022
	全ベータ放射能	2	0.051～0.059	0.038～0.039	0.032～0.035	0.026～0.058	※	0.028～0.039
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.025～0.026	0.017～0.018	0.010～0.013	0.009～0.029	0.008～0.035	0.005～0.030
	全ベータ放射能	2	0.045～0.048	0.034～0.036	0.024～0.029	0.021～0.049	0.021～0.061	0.019～0.058

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

H26～: 平成26年度から前四半期まで。(尚、福島第一原子力発電所は平成28年度第3四半期から)

事故直後: 事故後(平成23年3月11日)から平成25年度まで。

事故前: 平成13年から事故前(平成23年3月10日)まで。

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、平成28年10月から運用開始したため)

#### イ. 変動状況

福島第一原子力発電所において最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響と思われる。

ただし、一部の測定結果に若干の相関に変動が見られますが、周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響と思われる。

福島第二原子力発電所の各地点の最大値は、事故前の最大値を下回りました。また、全アルファ・全ベータ放射能に良い相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響と思われる。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値

(単位: Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	最大値			過去の最大値		
			7月	8月	9月	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.10～0.14	0.088～0.095	0.054～0.064	0.17	※	0.17
	全ベータ放射能	2	0.19～0.22	0.15	0.10～0.11	0.40	※	0.24
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.11～0.12	0.079～0.084	0.053～0.056	0.14	0.14	0.20
	全ベータ放射能	2	0.18～0.20	0.14	0.089～0.093	0.21	0.23	0.29

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、平成28年10月から運用開始したため)

## (2) 環境試料の核種濃度

福島第一原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料、松葉が2地点2試料の4品目で合計13試料でした。

福島第二原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料、松葉が2地点2試料の4品目で合計13試料でした。

詳細な測定値は、福島第一25～26ページ、福島第二30～31ページを参照

### ア. 福島第一原子力発電所測定分

福島第一原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、海水、海底土、松葉の4品目合計13試料から、セシウム-134・セシウム-137が検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、概ね横ばい傾向にあります。

なお、海水のトリチウムについては3試料のうち北放水口の1試料から検出されましたが、事故前の測定値と同程度の値にあります。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線放出核種	測定値	過去の測定値		
				H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq/m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	0.060 ～ 0.58	0.066 ～ 18	1.7 ～ 88	ND
		Cs-137	0.65 ～ 6.0	0.76 ～ 57	2.6 ～ 200	ND
海水 (Bq/ℓ)	3	Cs-134	0.006 ～ 0.037	ND ～ 6.0	ND ～ 76	ND
		Cs-137	0.060 ～ 0.36	0.036 ～ 18	ND ～ 110	ND ～ 0.003
海底土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	15 ～ 25	16 ～ 350	110 ～ 1,200	ND
		Cs-137	150 ～ 250	150 ～ 1,100	210 ～ 1,800	ND ～ 1.2
松葉 (Bq/kg 生)	2	Cs-134	12 ～ 18	12 ～ 2,100	890 ～ 220,000	ND
		Cs-137	160 ～ 190	90 ～ 5,900	1,600 ～ 310,000	ND ～ 0.14

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
H26～：平成26年度から前四半期まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～（数値）」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線放出核種	測定値	過去の測定値		
				H26～	事故後	事故前
海水 (Bq/ℓ)	3	H-3	ND ～ 0.67	ND ～ 340	ND ～ 180	ND ～ 0.67

### イ. 福島第二原子力発電所測定分

福島第二原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、海水、海底土、松葉の4品目合計13試料から、セシウム-137が検出されました。

また、大気浮遊じんと海水、松葉の一部を除く3品目合計5試料から、セシウム-134が検出されました。すべての試料において測定値の変動はありますが、概ね横ばい傾向にあります。

なお、海水のトリチウムについては、検出されませんでした。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線 放出核種	測定値	過去の測定値		
				H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq/m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	ND	ND ~ 0.070	ND ~ 0.75	ND
		Cs-137	0.011 ~ 0.022	ND ~ 0.20	ND ~ 1.1	ND
海水 (Bq/ℓ)	3	Cs-134	ND ~ 0.002	ND ~ 0.043	ND ~ 0.36	ND
		Cs-137	0.020 ~ 0.028	ND ~ 0.11	0.079 ~ 1.1	ND ~ 0.003
海底土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	6.8 ~ 11	5.7 ~ 74	41 ~ 200	ND
		Cs-137	74 ~ 110	53 ~ 220	92 ~ 360	ND ~ 1.5
松葉 (Bq/kg 生)	2	Cs-134	ND ~ 5.1	ND ~ 120	60 ~ 17,160	ND
		Cs-137	22 ~ 33	18 ~ 330	130 ~ 22,840	ND ~ 0.060

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
H26～：平成26年度から前四半期まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～（数値）」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線 放出核種	測定値	過去の測定値		
				H26～	事故直後	事故前
海水 (Bq/ℓ)	3	H-3	ND	ND	ND	ND ~ 0.77

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

福島第一原子力発電所

1. 空間放射線  
(1) 空間線量率

単位: 線量率:mGy/h  
測定時間:h  
上段:平均値  
下段:(最大値)

測定年月 測定地点名 No	測定項目	H30.4		5		6		7		8		9		10		11		12		H31.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1	M P - 1	863 (890)	720	841 (877)	744	869 (910)	720	890 (926)	744	848 (924)	744	785 (811)	720												
2	M P - 2	1,432 (1,484)	720	1,321 (1,444)	744	1,245 (1,309)	720	1,266 (1,311)	744	1,233 (1,300)	744	1,167 (1,219)	720												
3	M P - 3	895 (922)	720	871 (914)	744	864 (908)	720	886 (914)	744	871 (918)	744	826 (857)	720												
4	M P - 4	1,664 (1,730)	720	1,599 (1,678)	744	1,566 (1,654)	720	1,582 (1,639)	744	1,554 (1,633)	744	1,461 (1,510)	720												
5	M P - 5	1,145 (1,187)	720	1,105 (1,169)	744	1,093 (1,169)	720	1,124 (1,188)	744	1,123 (1,198)	744	1,057 (1,110)	720												
6	M P - 6	483 (494)	720	476 (489)	744	475 (487)	720	479 (490)	744	472 (487)	744	462 (474)	720												
7	M P - 7	850 (865)	720	835 (856)	744	829 (853)	720	838 (854)	744	831 (857)	744	805 (821)	720												
8	M P - 8	814 (828)	720	798 (817)	744	790 (809)	720	792 (806)	744	785 (805)	744	764 (777)	720												

注) ・空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストによる。

・震災後MP-6, 7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えていた。

尚, MP-6については事務棟工事などにより周辺環境の線量率が低下したことから、平成25年7月に検出器廻りの遮へいを撤去している。

(2)空間積算線量

(単位：mG・y)

No.	測定地点名	測定期間		H30.4.12 ～ H30.7.5		H30.7.5 ～ H30.10.4		～	
		測定	項目	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	M P - 1			1.46 ( 1.57 )	84	1.53 ( 1.51 )	91		
2	M P - 2			2.25 ( 2.41 )	84	2.24 ( 2.22 )	91		
3	M P - 3			1.80 ( 1.92 )	84	1.85 ( 1.83 )	91		
4	M P - 4			1.69 ( 1.81 )	84	1.65 ( 1.63 )	91		
5	M P - 5			2.16 ( 2.31 )	84	2.19 ( 2.17 )	91		
6	M P - 6			1.29 ( 1.38 )	84	1.35 ( 1.33 )	91		
7	M P - 7			5.10 ( 5.47 )	84	5.43 ( 5.37 )	91		
8	M P - 8			9.45 ( 10.14 )	84	9.79 ( 9.68 )	91		
9※	双葉町郡山塚ノ腰			0.97 ( 1.04 )	84	1.02 ( 1.01 )	91		
10	双葉町長塚鬼ノ木			0.97 ( 1.04 )	84	1.05 ( 1.04 )	91		
11	双葉町山田西郷内			1.82 ( 1.95 )	84	1.87 ( 1.85 )	91		
12	大熊町茨沢中央台			3.36 ( 3.92 )	84	4.24 ( 4.19 )	91		
13	大熊町役場			3.63 ( 3.89 )	84	3.85 ( 3.81 )	91		
14	大熊町小入野東大和久			10.72 ( 11.49 )	84	11.60 ( 11.47 )	91		
15	大熊町熊川緑ヶ丘			8.78 ( 9.41 )	84	9.27 ( 9.17 )	91		
16	大熊町熊川久麻川			7.23 ( 7.75 )	84	7.73 ( 7.65 )	91		
17	浪江町北棚塩総合会所			0.23 ( 0.25 )	84	0.24 ( 0.24 )	91		
18	浪江町川添中上ノ原			0.47 ( 0.50 )	84	0.49 ( 0.49 )	91		
19	大熊町野上湯の神			0.90 ( 0.96 )	84	0.93 ( 0.92 )	91		
20	富岡町新福島変電所			1.08 ( 1.16 )	84	1.13 ( 1.12 )	91		
21	富岡町東京電力西原寮			0.51 ( 0.55 )	84	0.53 ( 0.52 )	91		

(注) 1. ( )内は、90日換算値。

※No9:郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ地点変更 (国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことによる変更：平成28年第3四半期より)

2. 環境試料  
(1) 大気浮遊じん全アルファ及び全ベータ放射能

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

測定年月	H30.4		5		6		7		8		9		10		11		12		H31.1		2		3	
	測定項目	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	
1 MP-3*	全アルファ放射能	0.017 (0.11)	720	0.017 (0.11)	743	0.018 (0.10)	720	0.027 (0.14)	720	0.017 (0.095)	744	0.014 (0.064)	720											
	全ベータ放射能	0.044 (0.19)	720	0.045 (0.19)	743	0.050 (0.40)	720	0.059 (0.22)	720	0.038 (0.15)	744	0.032 (0.11)	720											
2 MP-8*	全アルファ放射能	0.013 (0.079)	720	0.014 (0.065)	742	0.014 (0.068)	720	0.021 (0.10)	720	0.015 (0.088)	744	0.012 (0.054)	720											
	全ベータ放射能	0.042 (0.15)	720	0.042 (0.13)	742	0.041 (0.13)	720	0.051 (0.19)	720	0.039 (0.15)	744	0.035 (0.10)	720											

※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ : MP 3については、平成28年10月より本運用開始。

: MP 8については、平成29年10月より本運用開始。

・ 欠測時には、可搬型連続ダストモニタにて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

※ 点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-3 : 平成30年5月23日・7月26日・27日

MP-8 : 平成30年5月30日・7月23日・24日

(2) 大気浮遊じん中の核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種							濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )				
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	
1	MP-3	H30. 4. 1 ~ H30. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.83	8.0	ND
		H30. 5. 1 ~ H30. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.73	7.0	ND
		H30. 6. 1 ~ H30. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.0	10	ND
		H30. 7. 1 ~ H30. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.58	6.0	ND
		H30. 8. 1 ~ H30. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.28	3.0	ND
		H30. 9. 1 ~ H30. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	2.1	ND
2	MP-8	H30. 4. 1 ~ H30. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.52	4.9	ND
		H30. 5. 1 ~ H30. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.31	2.8	ND
		H30. 6. 1 ~ H30. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	1.2	ND
		H30. 7. 1 ~ H30. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	1.2	ND
		H30. 8. 1 ~ H30. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.073	0.78	ND
		H30. 9. 1 ~ H30. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.060	0.65	ND

(注) 1. 「ND」は検出限界未満である。





福島第二原子力発電所

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

〔単位：線量率：nGy/h 上段：平均値  
測定時間：h 下段：(最大値)〕

測定年月 測定項目 測定地点名 No.	H30.4		5		6		7		8		9		10		11		12		H31.1		2		3		
	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	
1	MP-1	320 (332)	720	311 (324)	738	311 (325)	715	318 (329)	744	318 (333)	744	304 (317)	720												
2	MP-2	203 (214)	720	195 (208)	739	196 (205)	715	200 (206)	744	198 (208)	744	189 (199)	720												
3	MP-3	328 (343)	720	317 (336)	738	315 (332)	715	325 (338)	744	323 (340)	744	304 (316)	720												
4	MP-4	312 (326)	720	304 (321)	739	303 (319)	715	313 (325)	744	310 (328)	744	294 (304)	720												
5	MP-5	302 (308)	720	298 (310)	739	291 (305)	715	289 (294)	744	287 (295)	744	280 (289)	720												
6	MP-6	164 (176)	720	158 (176)	739	155 (164)	715	157 (163)	744	158 (167)	744	152 (161)	720												
7	MP-7	99 (111)	720	97 (115)	739	96 (103)	715	97 (105)	744	97 (105)	744	94 (106)	720												

注) 欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

- MP-1：平成30年5月15日・6月7日
- MP-3：平成30年5月17日・6月12日
- MP-5：平成30年5月22日・6月14日
- MP-7：平成30年5月24日・6月19日
- MP-2：平成30年5月16日・6月8日
- MP-4：平成30年5月18日・6月13日
- MP-6：平成30年5月23日・6月15日

福島第二原子力発電所

(2) 空間積算線量

(単位：mG.y)

No.	測定地点名	測定期間		H30.7.5		H30.10.4		～	
		測定項目	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量
1	M P - 1		0.77 (0.83)	84	0.83 (0.82)	91			
2	M P - 2		0.44 (0.47)	84	0.47 (0.46)	91			
3	M P - 3		0.75 (0.80)	84	0.81 (0.80)	91			
4	M P - 4		0.65 (0.70)	84	0.69 (0.68)	91			
5	M P - 5		0.65 (0.70)	84	0.68 (0.67)	91			
6	M P - 6		0.34 (0.36)	84	0.36 (0.36)	91			
7	M P - 7		0.19 (0.20)	84	0.21 (0.21)	91			
8	富岡町小こはま浜		0.50 (0.54)	84	0.52 (0.51)	91			
9	富岡町富岡第一中学校		0.37 (0.40)	84	0.40 (0.40)	91			
10	富岡町上の町社宅		0.47 (0.50)	84	0.49 (0.48)	91			
11	富岡町上郡山清水		0.51 (0.55)	84	0.55 (0.54)	91			
12	富岡町上郡山上郡		0.58 (0.62)	84	0.64 (0.63)	91			
13	榎葉町上繁岡山根		0.53 (0.57)	84	0.58 (0.57)	91			
14	榎葉町下出浄光東		0.48 (0.51)	84	0.52 (0.51)	91			
15	榎葉町上郡山岩井戸		0.51 (0.55)	84	0.54 (0.53)	91			
16	榎葉町上郡山岩井戸		0.50 (0.54)	84	0.54 (0.53)	91			
17	榎葉町井出八石		0.26 (0.28)	84	0.28 (0.28)	91			
18	榎葉町榎葉中学校		0.19 (0.20)	84	0.21 (0.21)	91			

注) ( ) 内は、90日換算値。

福島第二原子力発電所

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

2. 環境試料  
(1) 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

No.	測定地点名	測定年月	H30.4		5		6		7		8		9		10		11		12		H31.1		2		3			
			測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間		
1	MP-1	全アルファ放射能	0.016	720	0.014	744	0.015	696	0.025	744	0.017	744	0.010	720														
			(0.065)		(0.064)		(0.078)		(0.11)		(0.079)		(0.053)															
			0.031	720	0.028	744	0.031	696	0.045	744	0.034	744	0.024	720														
2	MP-7	全アルファ放射能	0.017	720	0.015	744	0.014	696	0.026	744	0.018	744	0.013	696														
			(0.073)		(0.059)		(0.080)		(0.12)		(0.084)		(0.056)															
			0.033	720	0.030	744	0.031	696	0.048	744	0.036	744	0.029	696														

注) 欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：平成30年6月21日・22日

MP-7：平成30年6月26日・28日・9月24日

(2) 大気浮遊じん中の核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )													
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce			
1	MP-1	H30. 4. 1 ~ H30. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.023	ND	ND
		H30. 5. 1 ~ H30. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.055	ND	ND
		H30. 6. 1 ~ H30. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND
		H30. 7. 1 ~ H30. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.022	ND	ND
		H30. 8. 1 ~ H30. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND
		H30. 9. 1 ~ H30. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.020	ND	ND
2	MP-7	H30. 4. 1 ~ H30. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	0.037	ND
		H30. 5. 1 ~ H30. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND
		H30. 6. 1 ~ H30. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	ND	ND
		H30. 7. 1 ~ H30. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.015	ND	ND
		H30. 8. 1 ~ H30. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	ND	ND
		H30. 9. 1 ~ H30. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.022	ND	ND

注) 「ND」は検出限界未満である。



添付資料

原子炉運転状況、放射性廃棄物管理状況  
及び試料採取時の付帯データ

自 平成30年7月

至 平成30年9月

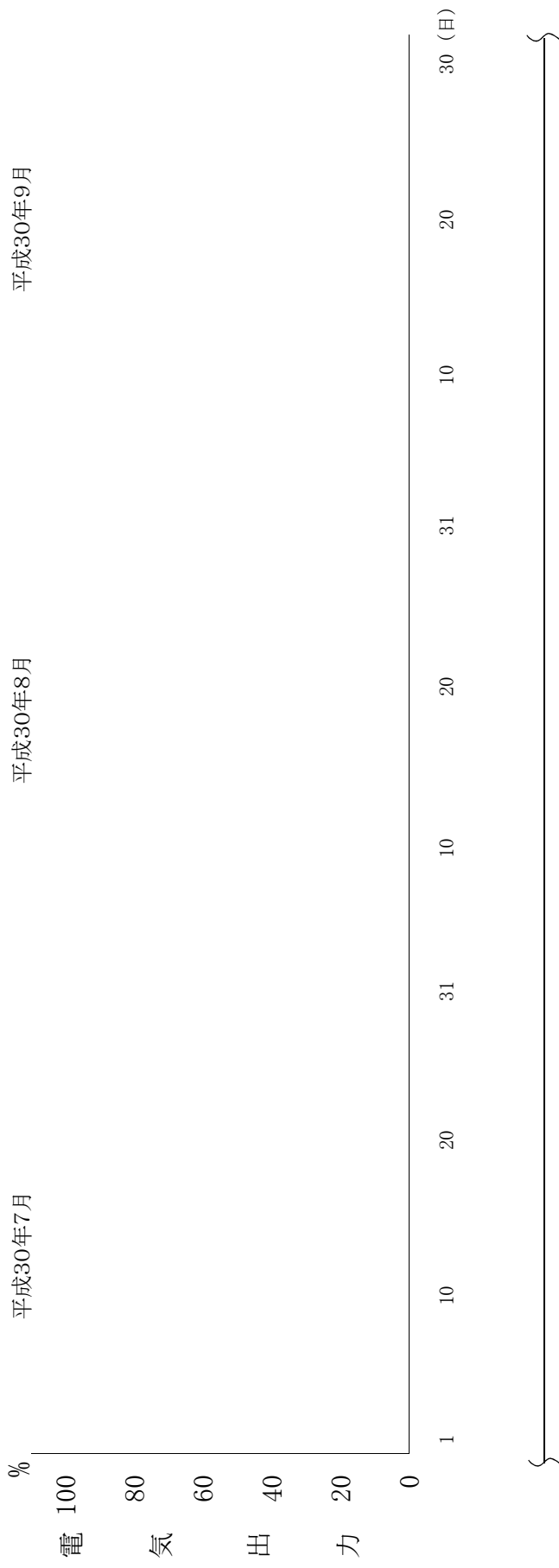
東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 福島第一原子力発電所 運転状況



1号機～6号機  
廃止措置

記 事

1. 福島第一原子力発電所放射性廃棄物管理状況（平成30年度 第2四半期報）

(1) 気体廃棄物の放出量（1～4号機）

a. 1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加放出量

(単位：Bq)

	粒子状物質		備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	
1～4号機合計※1	5. 7 × 10 <sup>7</sup>	4. 1 × 10 <sup>8</sup>	「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される <sup>134</sup> Cs及び <sup>137</sup> Csを対象としている。
1号機	4. 7 × 10 <sup>5</sup>	7. 0 × 10 <sup>5</sup>	
2号機	4. 6 × 10 <sup>7</sup>	3. 8 × 10 <sup>8</sup>	
3号機	8. 1 × 10 <sup>6</sup>	3. 2 × 10 <sup>7</sup>	
4号機※2	2. 9 × 10 <sup>6</sup>	2. 1 × 10 <sup>6</sup>	
内訳			月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気設備風量又は風量推定値(m <sup>3</sup> /h)を乗ずることによって放出率(Bq/h)を求め、その放出率に報告対象期間の時間(h)を乗ずることによって、追加放出量を求めている。
放出管理の目標値 (年間)	4. 3 × 10 <sup>10</sup>	4. 3 × 10 <sup>10</sup>	

※1 四捨五入の関係より、「号機毎の合計値」と「1～4号機合計」が合わない場合がある。

※2 4号機はCs-134, Cs-137どちらも検出されておらず検出限界値を用いて放出量を算出している。



(2) 放射性気体及び放射性液体廃棄物の放出量 (第2四半期)

a. 放射性気体廃棄物の放出量 (5・6号機及びその他)

(単位: Bq)

	全希ガス	<sup>131</sup> I	全粒子状物質	<sup>3</sup> H	備考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	1.7×10 <sup>4</sup>	2.0×10 <sup>10</sup>	放射性気体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: 2×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) <sup>131</sup> I: 7×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: 4×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>137</sup> Csで代表した) <sup>3</sup> H: 4×10 <sup>-5</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
5, 6号機共用排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	2.0×10 <sup>10</sup>	
排気筒 または 排気口 別内訳	—	検出されず	検出されず	検出されず	
焼却炉建屋排気筒	—	—	1.7×10 <sup>4</sup>	—	
大型機器除染設備排気口 及び 汚染拡大防止ハウス排気口	—	—	—	—	
年間放出管理目標値	2.8×10 <sup>15</sup> ※1	1.4×10 <sup>11</sup> ※1	—	—	

※1 特定原子力施設に係わる実施計画値 (5、6号機の合計値)。

b. 放射性液体廃棄物の放出量 (第2四半期)

(単位: Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核種別					
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>	7.4×10 <sup>10</sup>						

(続き)

	核種別		<sup>3</sup> H	備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs		
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	・1～4号機排水口は、閉塞済み。
排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>			7.4×10 <sup>12</sup> <sup>※2</sup>	

※1 5号機排水口および6号機排水口の放出管理目標値を示す。

なお、現在、実施計画においては1号機排水口～4号機排水口の放出管理目標値を設定していない。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

2. 試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (‰)
第一(発)取水口	H30. 5. 11	19. 0	15. 3	8. 2	18. 2
	H30. 8. 2	29. 8	24. 4	8. 1	19. 0
第一(発)南放水口	H30. 5. 11	17. 6	15. 3	8. 1	17. 6
	H30. 8. 2	29. 5	24. 7	8. 1	18. 9
第一(発)北放水口	H30. 5. 11	24. 5	15. 6	8. 2	18. 2
	H30. 8. 2	32. 6	25. 3	8. 1	18. 8

平成30年度月別降水データ表

月	日数 (d)	時間 (h)	降水量 (mm)
H30.4	8	48	72.0
5	15	77	131.0
6	8	63	129.5
7	8	42	104.0
8	13	96	174.5
9	17	122	177.5
10			
11			
12			
H31.1			
2			
3			
合計	69	448	788.5

福島第一原子力発電所

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β放射能	γ
大気浮遊じん	M P - 3	H30. 7. 1	連続	H30. 8. 9
		H30. 7. 31		
		H30. 8. 1	連続	H30. 9. 18
	H30. 8. 31			
	H30. 9. 1	連続	H30. 10. 25	
	H30. 9. 30			
H30. 7. 1	連続	H30. 8. 14		
H30. 7. 31				
M P - 8	M P - 8	H30. 8. 1	連続	H30. 9. 18
		H30. 8. 31		
	H30. 9. 1	連続	H30. 10. 23	
H30. 9. 30				

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日							
			γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	
海	取水	H30. 8. 2	H30. 8. 23	H30. 8. 11						
		H30. 8. 2	H30. 8. 28	H30. 8. 12						
		H30. 8. 2	H30. 8. 27	H30. 8. 11						
海底	放水	H30. 8. 2	H30. 8. 6							
		H30. 8. 2	H30. 8. 6							
		H30. 8. 20								
松葉	M P - 3 付近 環境管理棟付近	H30. 8. 16	H30. 8. 20							
		H30. 8. 16	H30. 8. 20							

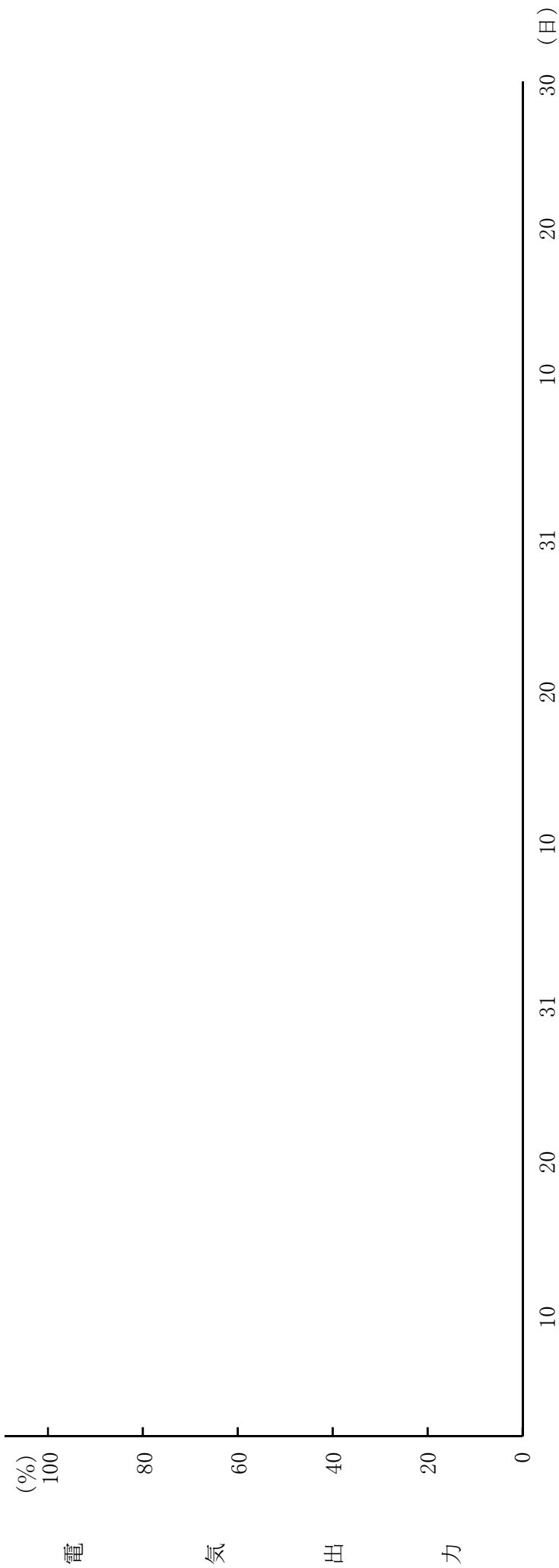
(注) 「/」は測定対象外。

# 福島第二原子力発電所 運転状況

平成30年9月

平成30年8月

平成30年7月



記

1号機, 2号機, 3号機, 4号機

H23. 3.11 (平成22年度) ~ 東日本大震災に伴う停止

事

放射性廃棄物管理状況

福島第二原子力発電所(平成30年度,第2四半期)

1. 放射性気体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

	全希ガス	$^{131}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	$3.4 \times 10^{10}$	放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。  検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{131}\text{I}$ : $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( $^{60}\text{Co}$ で代表した)
1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$3.2 \times 10^9$	
2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$2.5 \times 10^9$	
3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$1.3 \times 10^{10}$	
4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$1.5 \times 10^{10}$	
排気筒別内訳					その他排気筒(内訳) ・焼却設備排気筒 ・サイトバンカ建屋排気口
廃棄物処理建屋換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
その他排気筒	——	検出されず	検出されず	——	
年間放出管理目標値※1	$5.5 \times 10^{15}$	$2.3 \times 10^{11}$	——	——	

※1 放出管理目標値は「発電所用軽水炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射エネルギーである。

(単位: Bq)

2. 放射性液体廃棄物の放出量(第2四半期)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核種別							
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I		
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 <sup>*1</sup>	1.4 × 10 <sup>11</sup>								

42 (続き)

	核種別			<sup>3</sup> H	備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	その他		
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	9.3 × 10 <sup>9</sup>	放射性液体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全核種( <sup>3</sup> Hを除く): 2 × 10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>60</sup> Coで代表した) <sup>3</sup> H : 2 × 10 <sup>-1</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	検出されず	検出されず	9.3 × 10 <sup>9</sup>	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 <sup>*1</sup>				1.4 × 10 <sup>13</sup> <sup>*2</sup>	

\*1 放出管理目標値は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射能である。

\*2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。  
トリチウムは公衆への影響が比較的小さく、上記指針に定められた線量目標値がないことから、放出管理目標値の100倍の値を年間の放出放射能として設定したものである。



試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(℃)	水温(℃)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第二(発)取水口	H30. 5.22	22.0	16.0	8.0	18.9
	H30. 9.6	26.6	21.3	8.1	19.1
第二(発)南放水口	H30. 5.22	23.3	17.6	8.2	18.8
	H30. 9.6	29.3	22.0	8.1	19.0
第二(発)北放水口	H30. 5.22	22.0	17.0	8.1	18.5
	H30. 9.6	27.7	22.1	8.0	19.0

平成30年度月別降水データ表

月	日数(d)	時間(h)	降水量(mm)
H30.4	8	55	104.0
5	15	82	151.5
6	8	70	127.5
7	7	41	101.5
8	11	86	181.5
9	18	120	188.0
10			
11			
12			
H31.1			
2			
3			
合計	67	454	854.0

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日							
			$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$	
海水	取水口	H30.9.6	H30.10.3	H30.9.15						
	南放水口	H30.9.6	H30.10.4	H30.9.16						
	北放水口	H30.9.6	H30.10.9	H30.9.16						
海底土	南放水口	H30.9.6	H30.9.19							
	北放水口	H30.9.6	H30.9.17							
松葉	敷地の南境界付近	H30.8.20	H30.8.23							
	敷地の北境界付近	H30.8.20	H30.8.23							

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全放射能	$\alpha \cdot \beta$
大気浮遊じん	M P - 1	H30.7.1 ~H30.7.31	連続	H30.8.22
		H30.8.1 ~H30.8.31	連続	H30.9.10
		H30.9.1 ~H30.9.30	連続	H30.10.18
	M P - 7	H30.7.1 ~H30.7.31	連続	H30.8.24
		H30.8.1 ~H30.8.31	連続	H30.9.10
		H30.9.1 ~H30.9.30	連続	H30.10.22

# 平成30年度 第2四半期 空間線量率等の変動グラフ

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

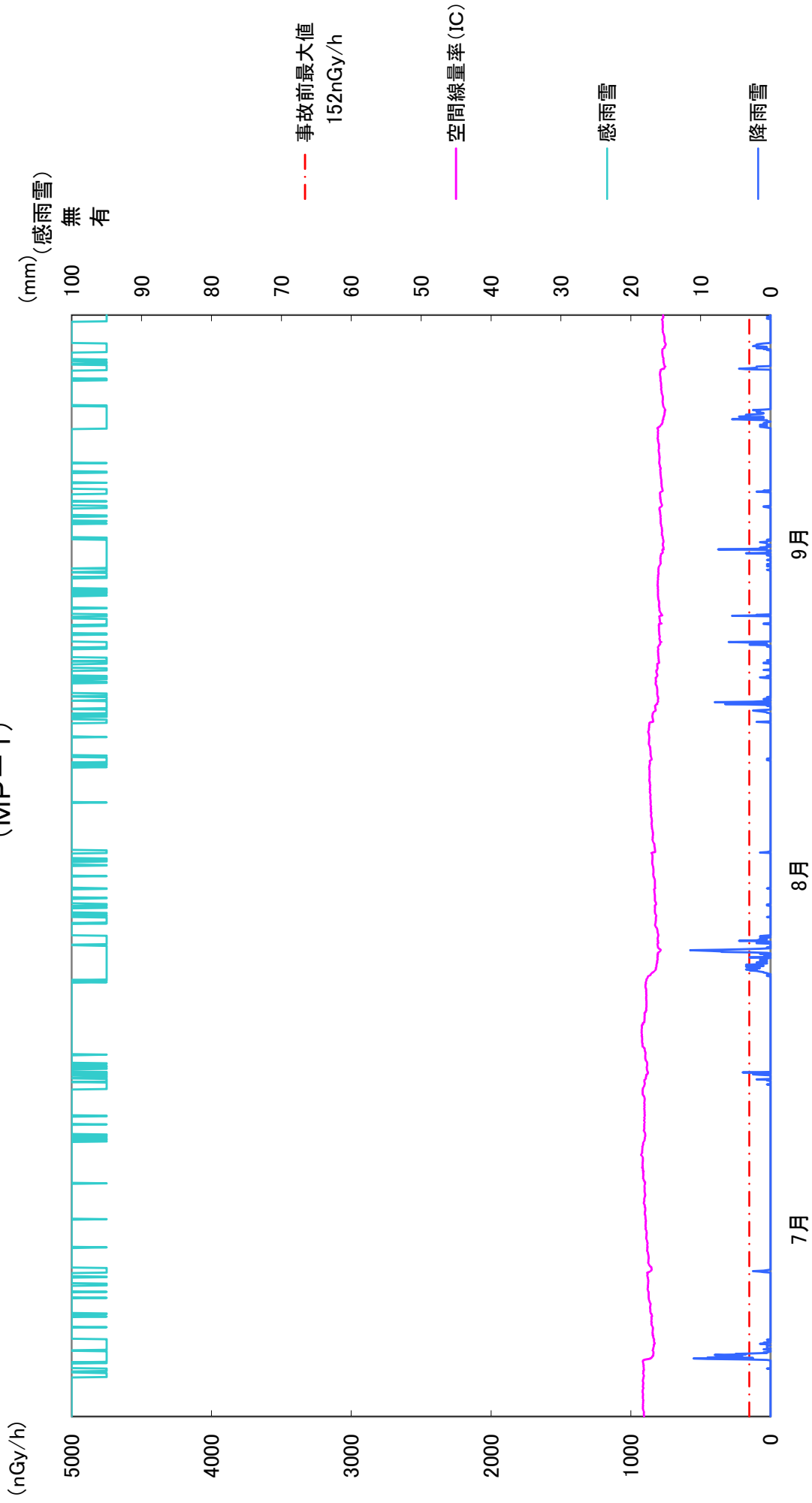
福島第二原子力発電所

# 目次

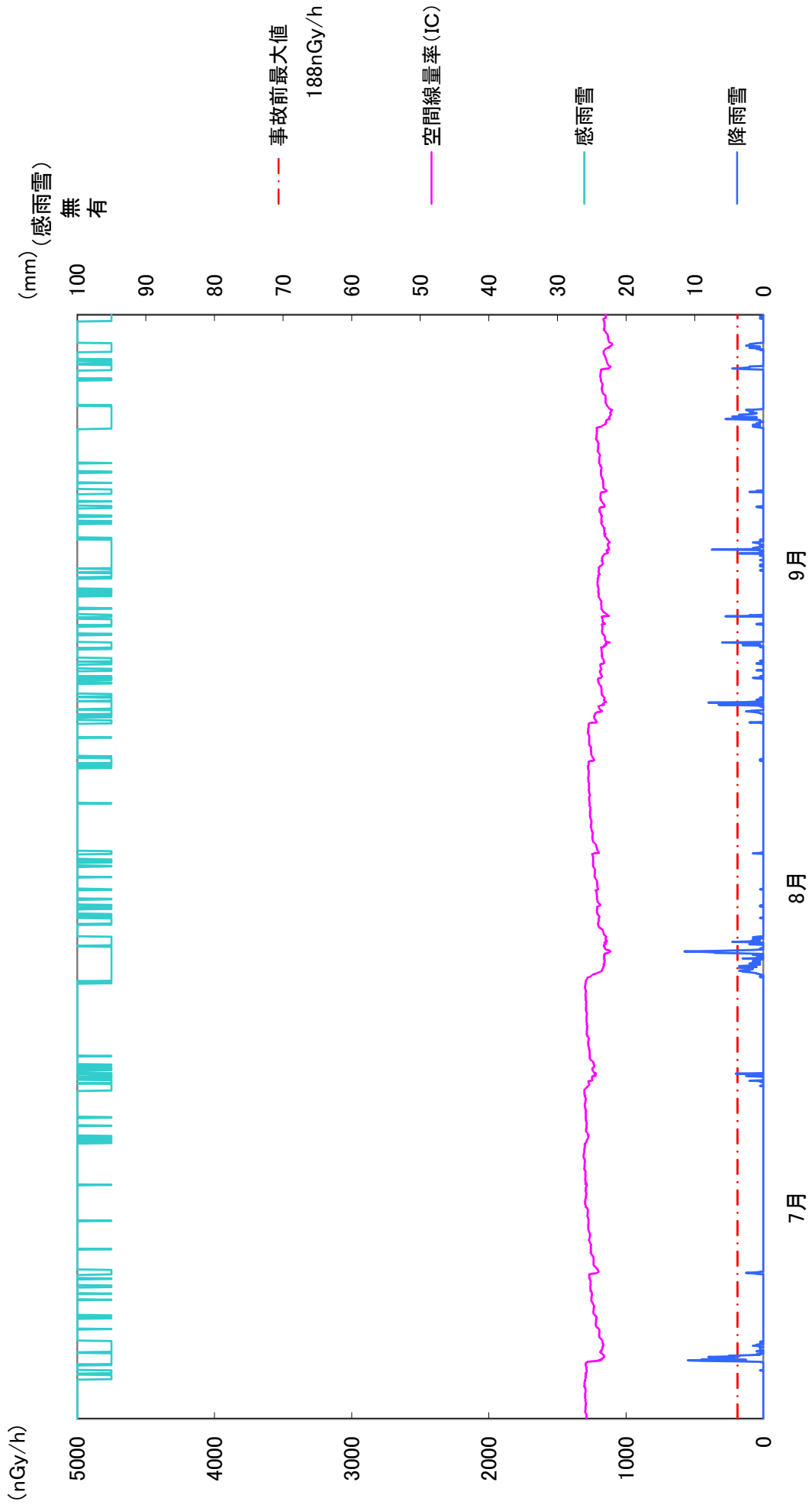
空間線量率			
1	福島第一原子力発電所 MP-1	・・・	48
2	福島第一原子力発電所 MP-2	・・・	49
3	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	50
4	福島第一原子力発電所 MP-4	・・・	51
5	福島第一原子力発電所 MP-5	・・・	52
6	福島第一原子力発電所 MP-6	・・・	53
7	福島第一原子力発電所 MP-7	・・・	54
8	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	55
9	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	56
10	福島第二原子力発電所 MP-2	・・・	57
11	福島第二原子力発電所 MP-3	・・・	58
12	福島第二原子力発電所 MP-4	・・・	59
13	福島第二原子力発電所 MP-5	・・・	60
14	福島第二原子力発電所 MP-6	・・・	61
15	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	62
	大気浮遊じん (推移)		
1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	63
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	64
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	65
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	66
	大気浮遊じん (相関図)		
1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	67
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	67
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	68
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	68

# 空間線量率の変動グラフ

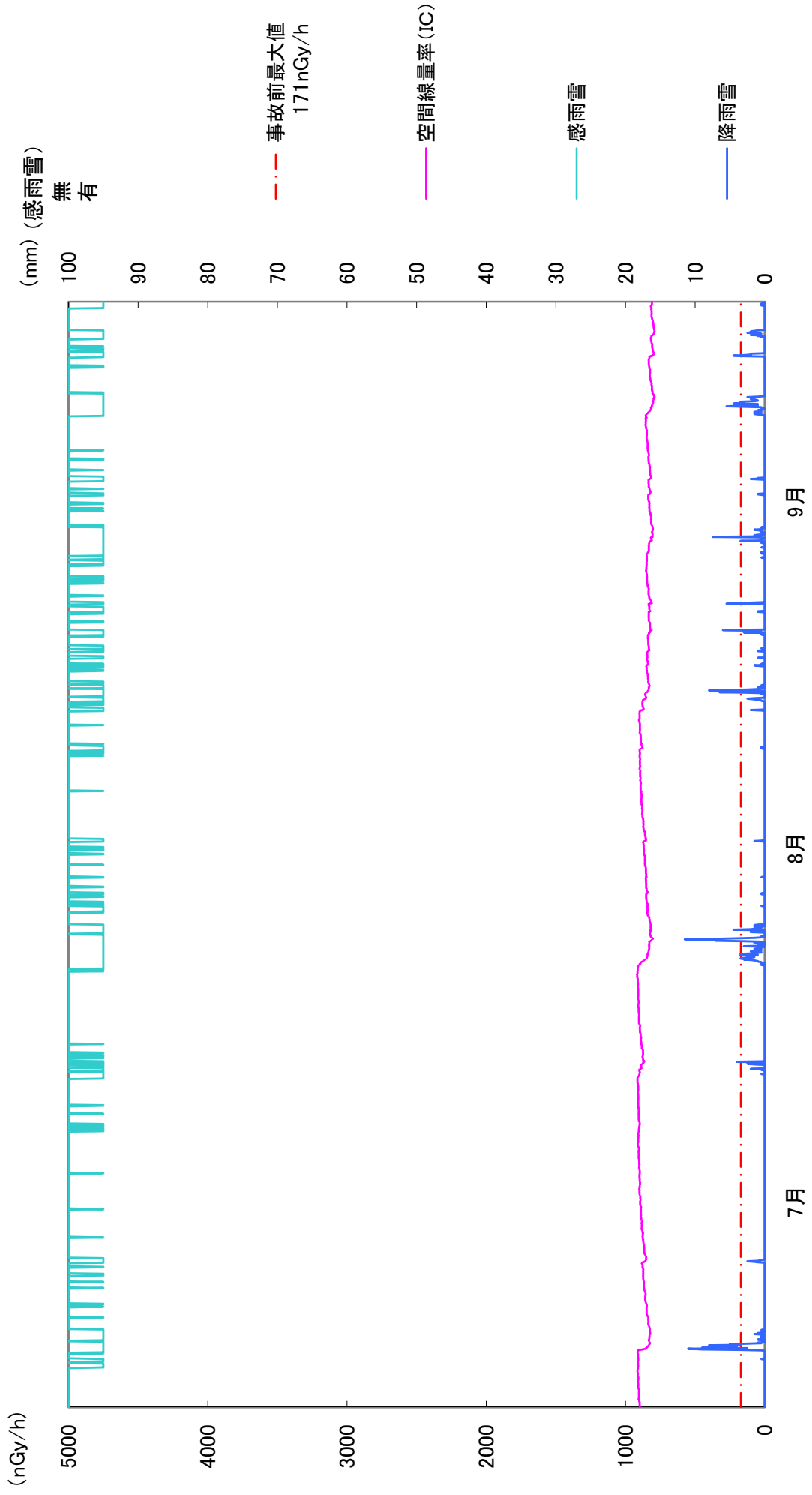
福島第一原子力発電所



### 空間線量率の変動グラフ (MP-2)

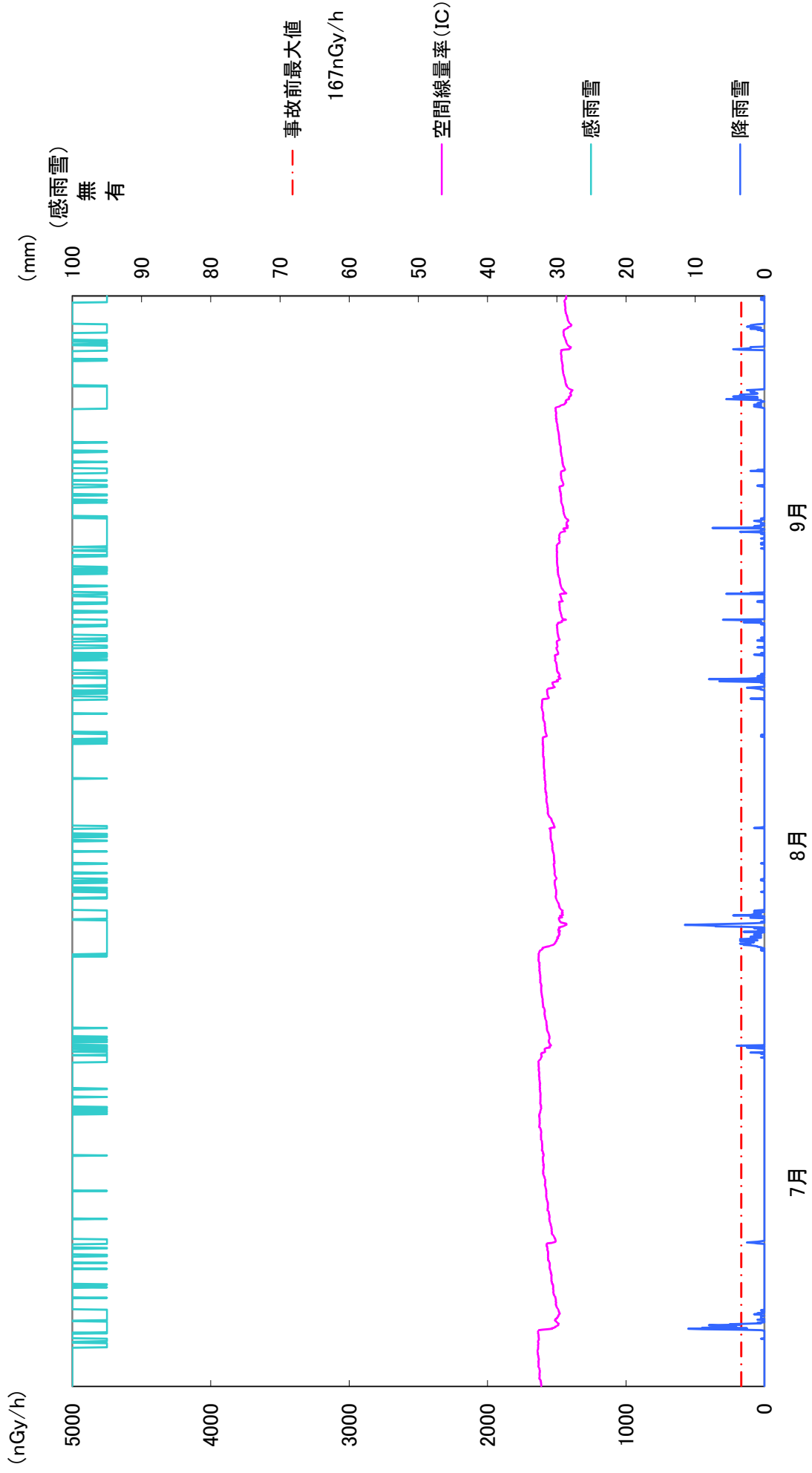


### 空間線量率の変動グラフ (MP-3)

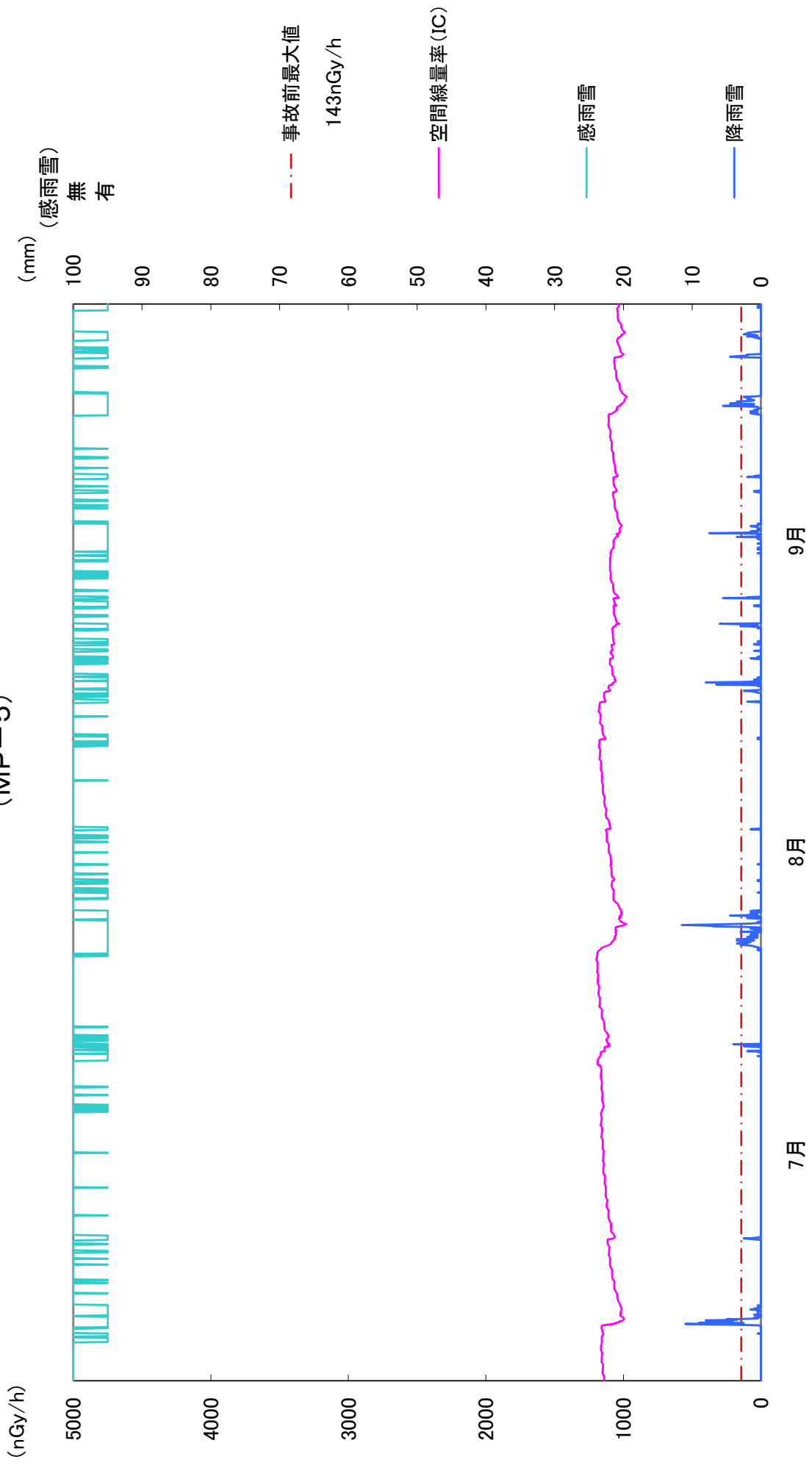




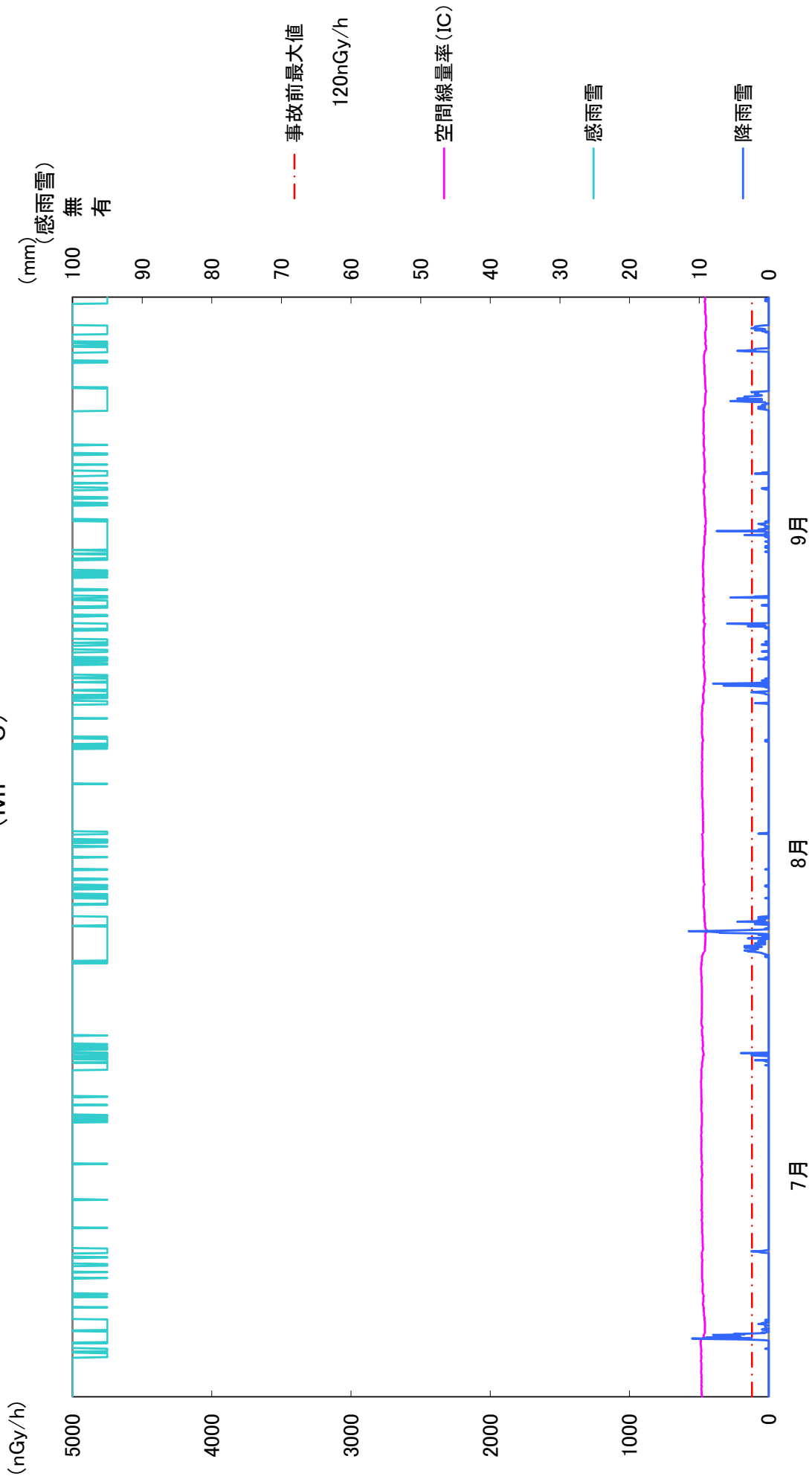
### 空間線量率の変動グラフ (MP-4)



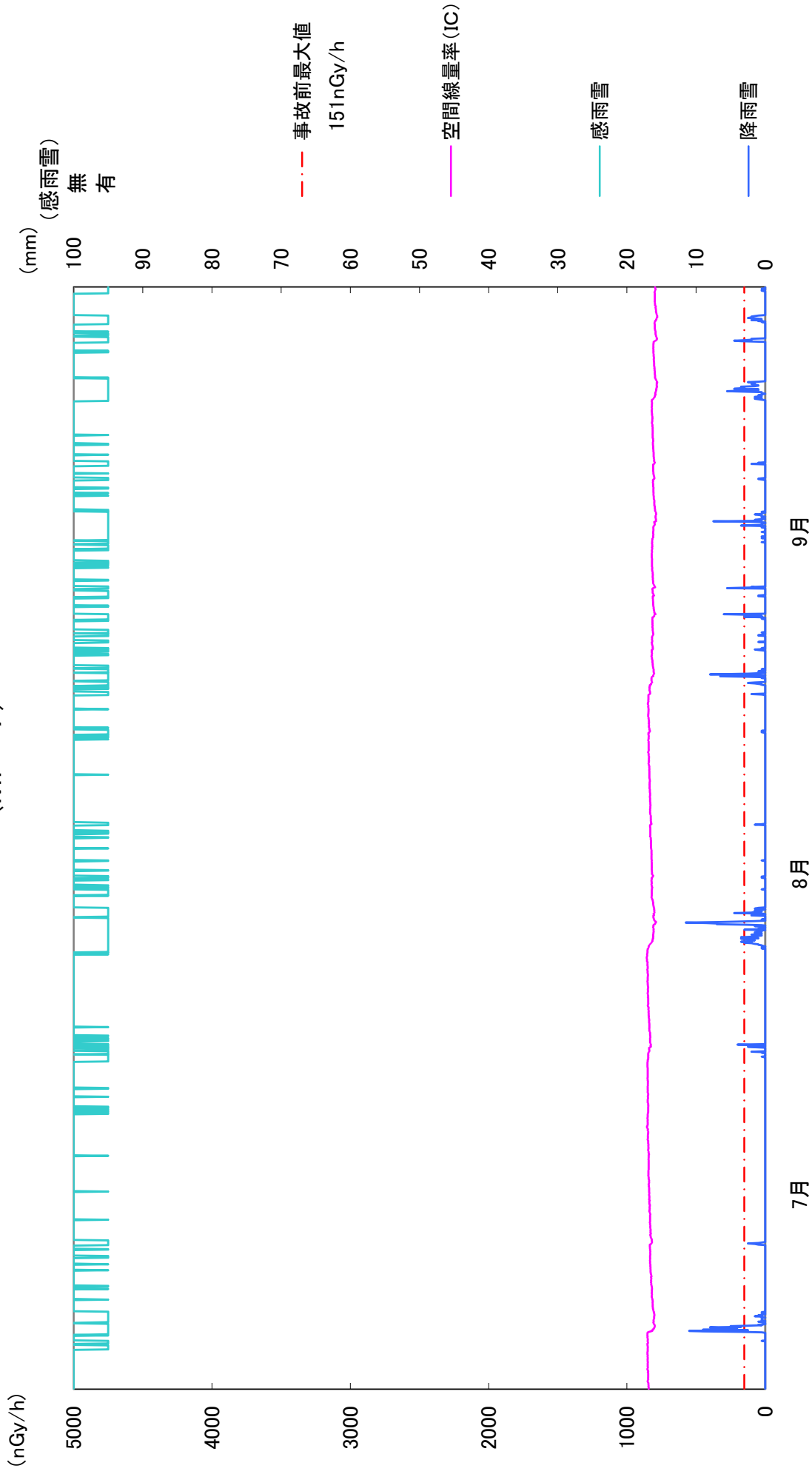
### 空間線量率の変動グラフ (MP-5)



空間線量率の変動グラフ  
(MP-6)

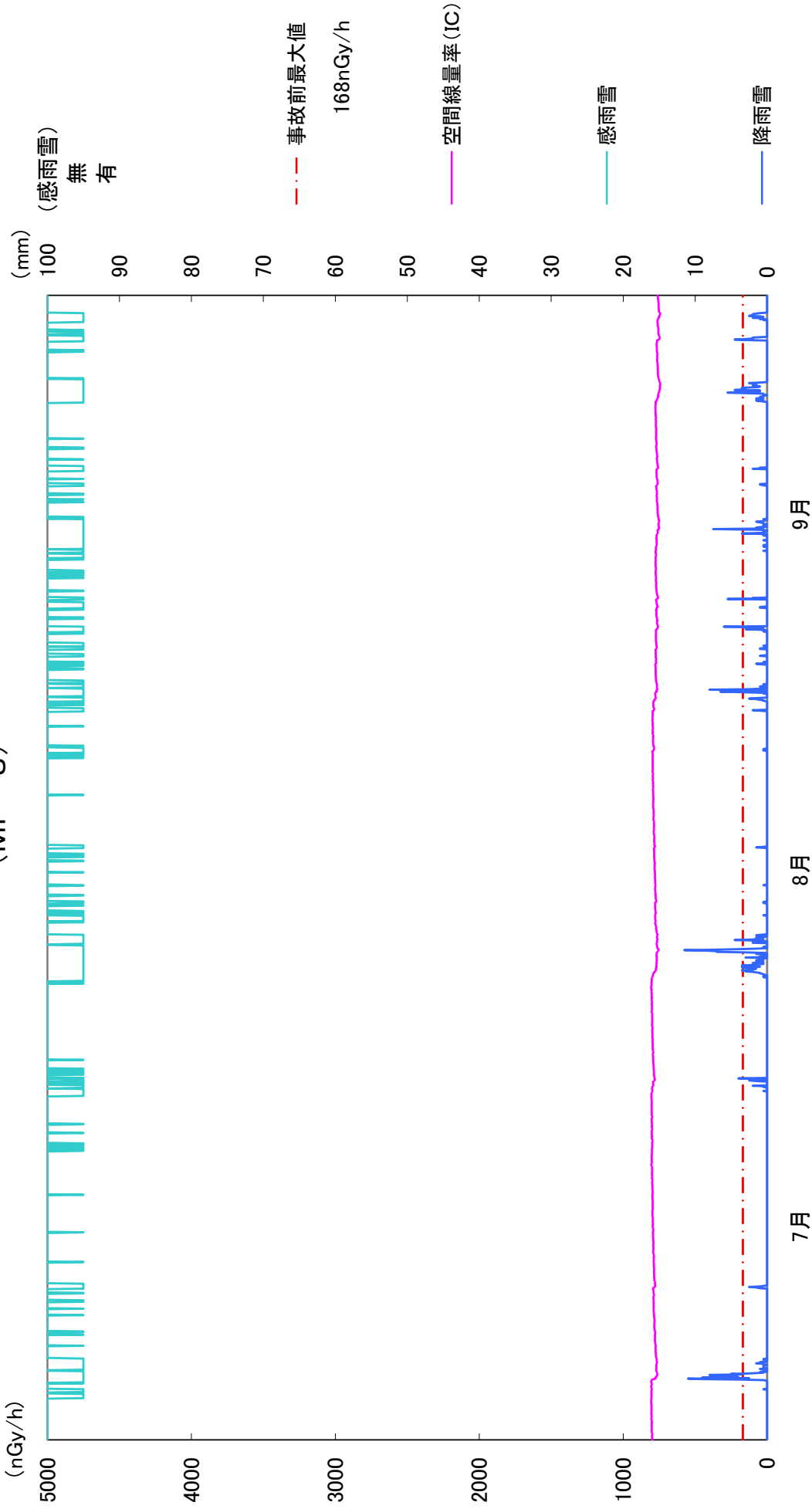


空間線量率の変動グラフ  
(MP-7)



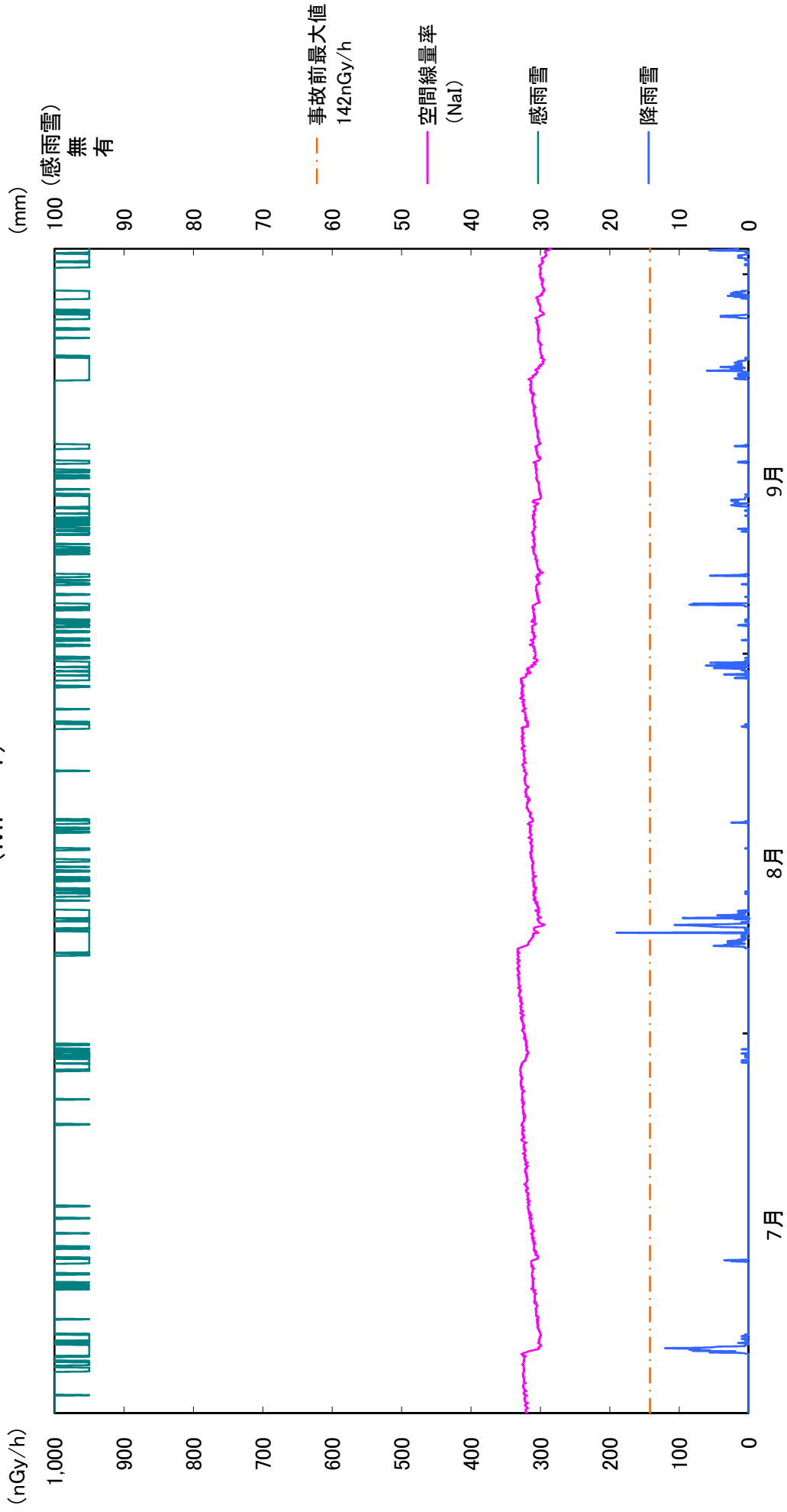
MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。

空間線量率の変動グラフ  
(MP-8)

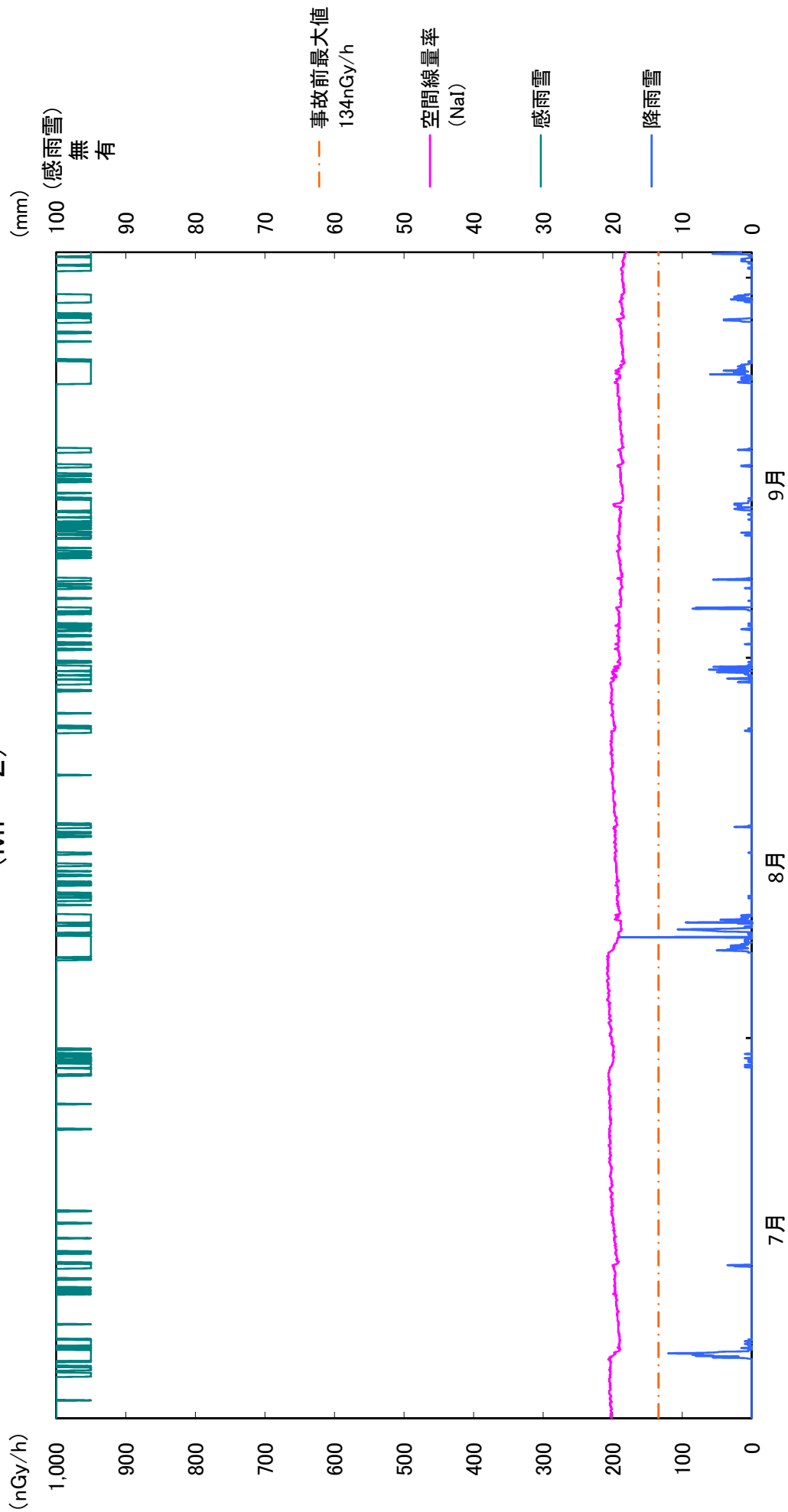


MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。

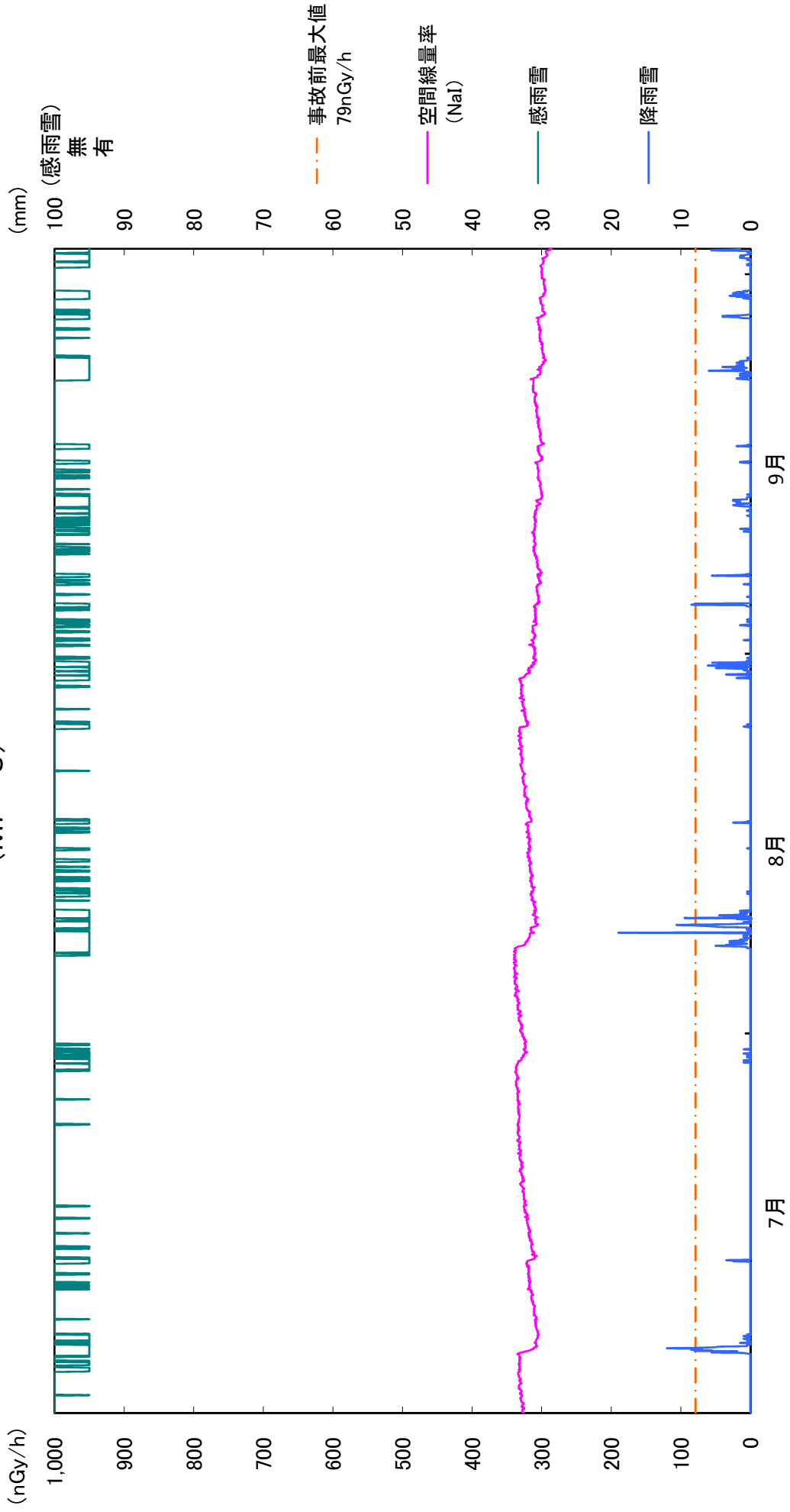
空間線量率の変動グラフ  
(MP-1)



### 空間線量率の変動グラフ (MP-2)

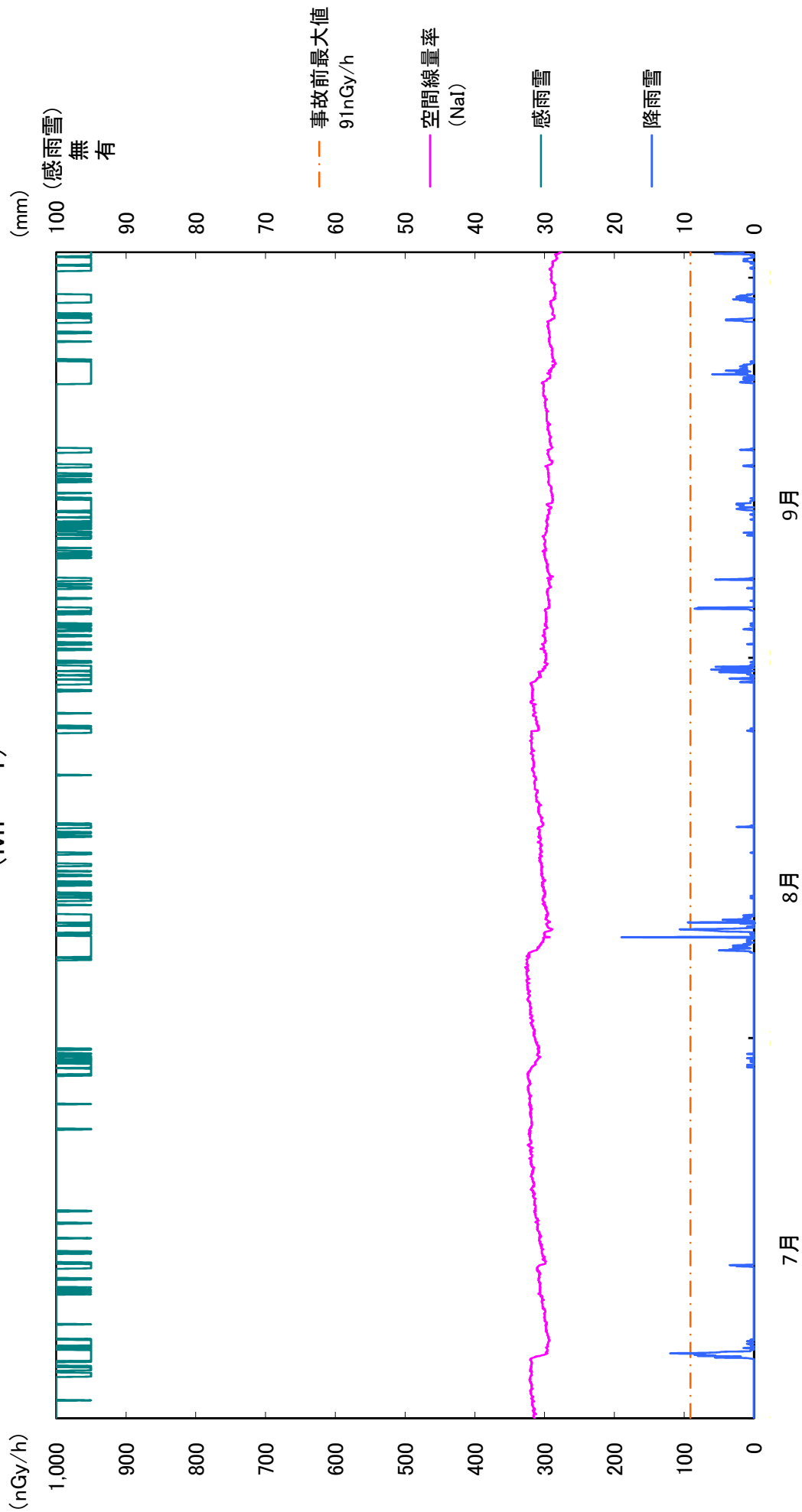


### 空間線量率の変動グラフ (MP-3)

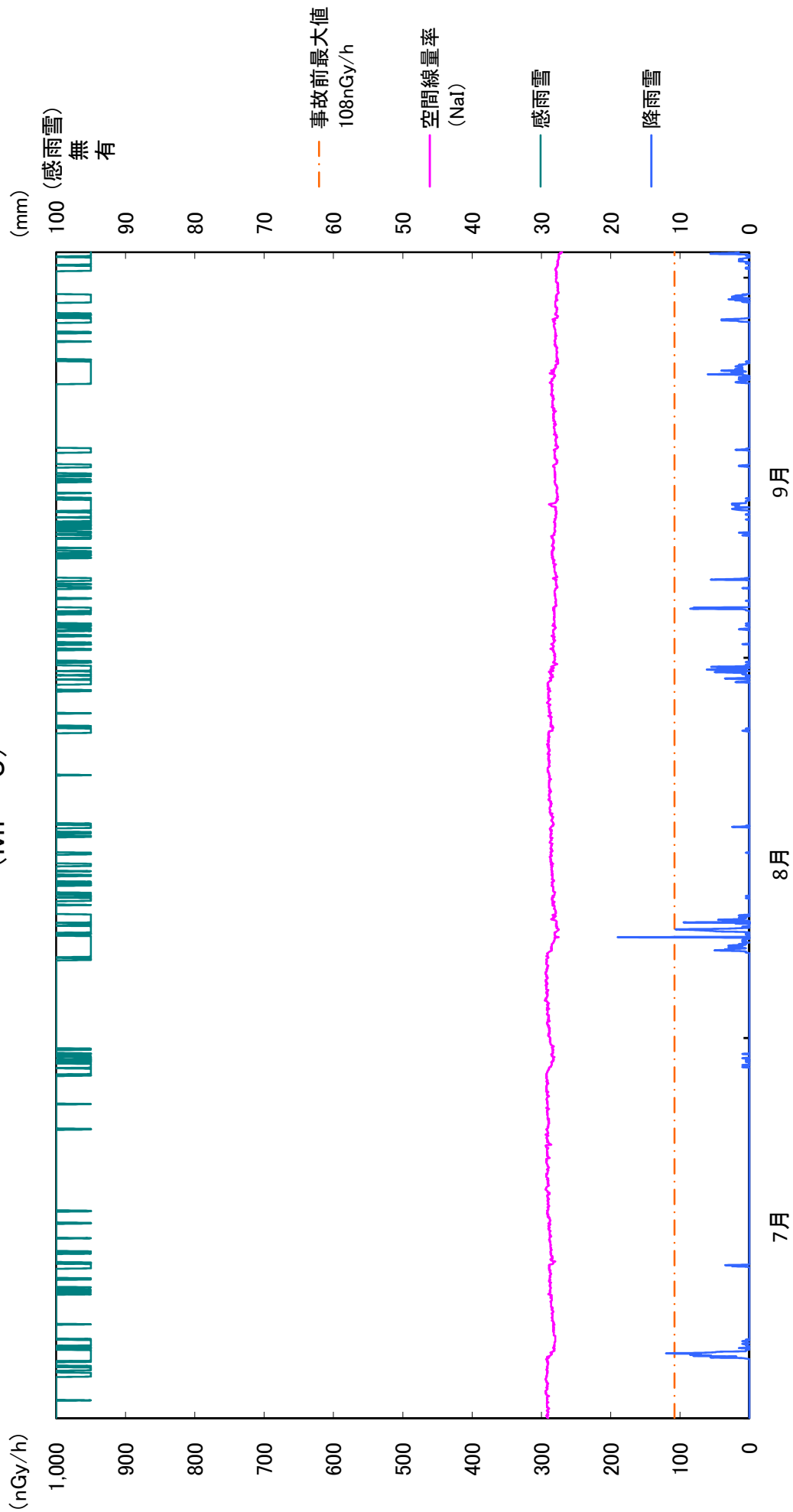




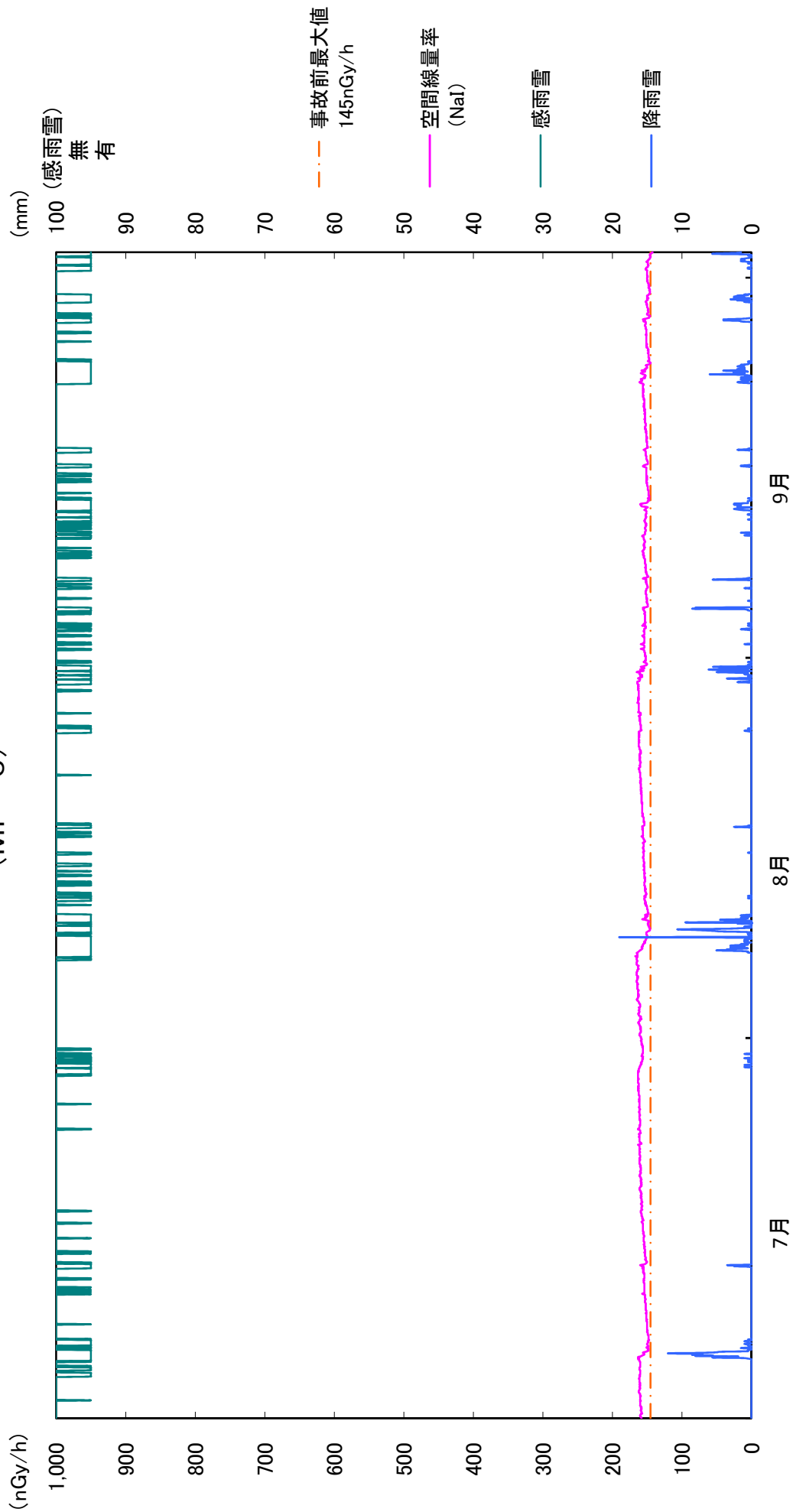
空間線量率の変動グラフ  
(MP-4)



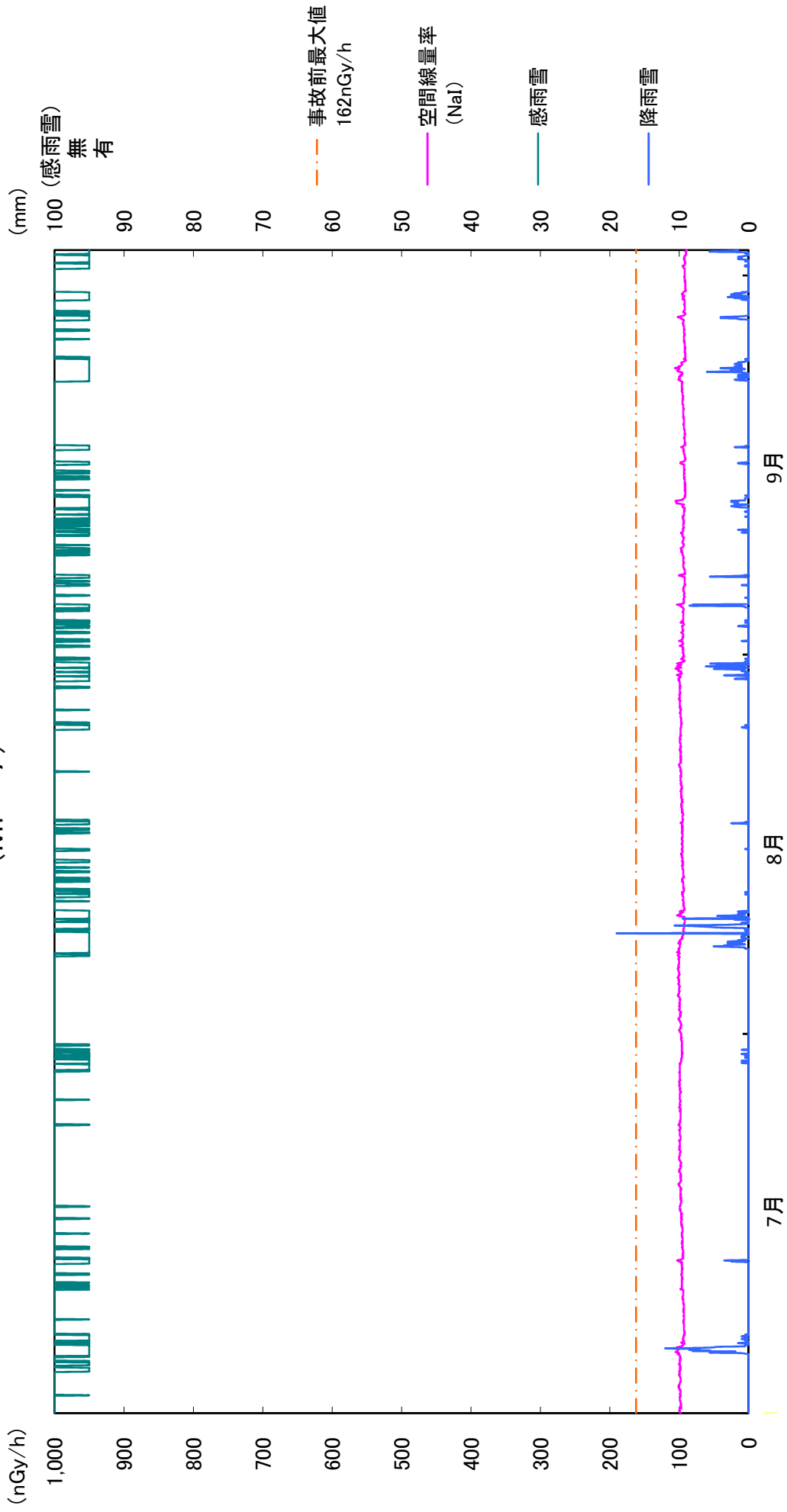
空間線量率の変動グラフ  
(MP-5)



空間線量率の変動グラフ  
(MP-6)



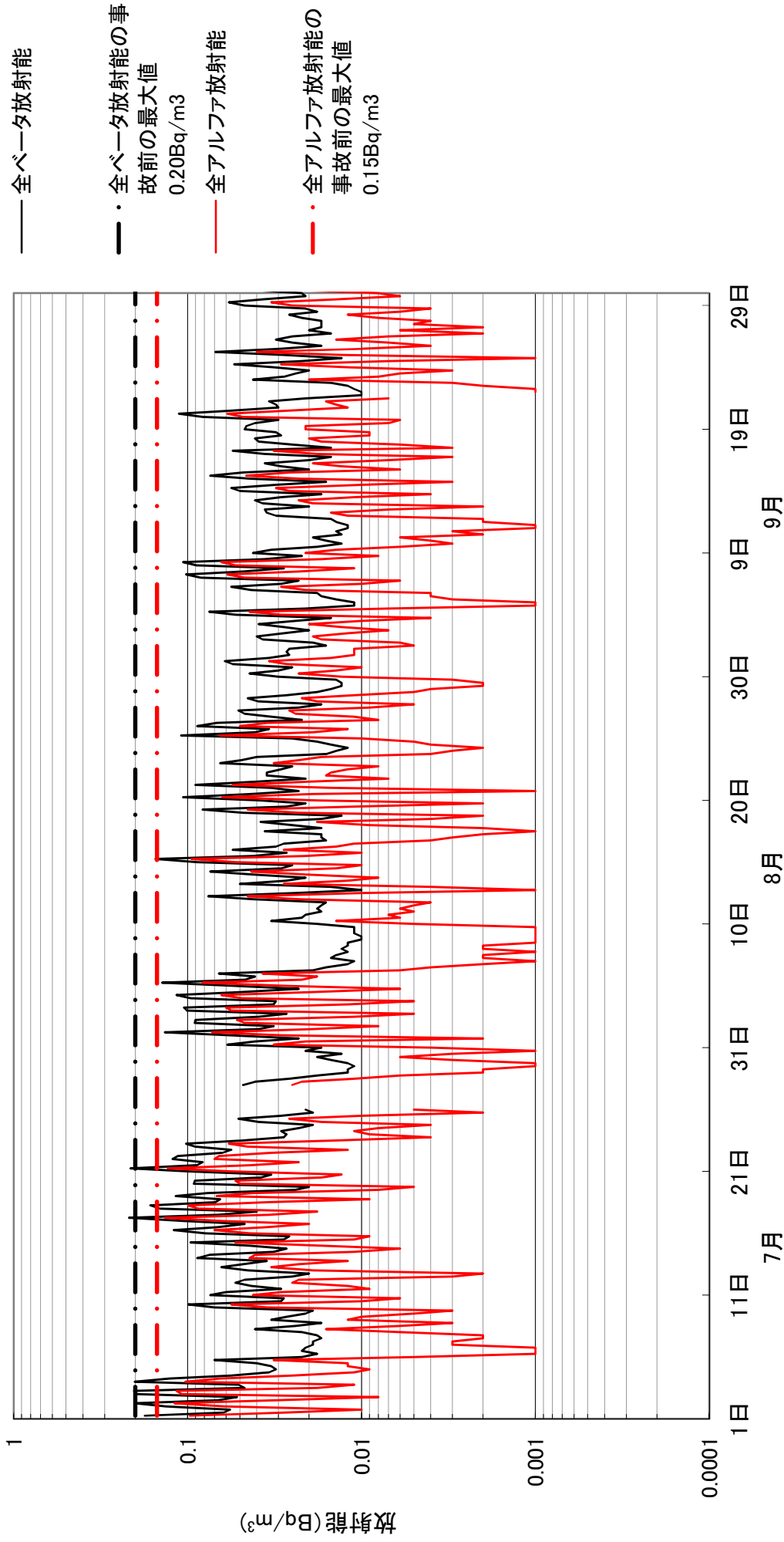
### 空間線量率の変動グラフ (MP-7)



# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-3

(平成30年7月1日～9月30日)

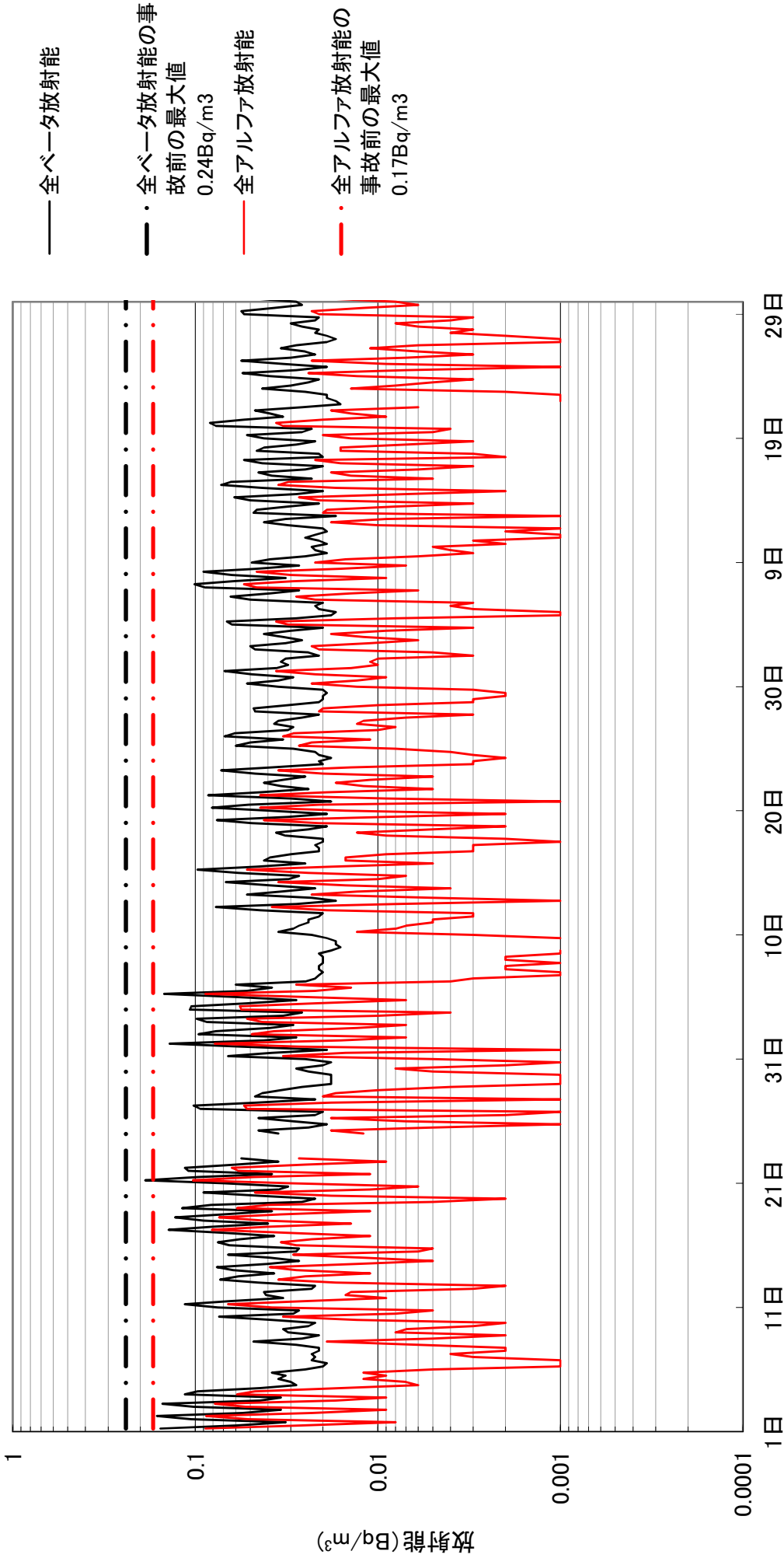


7月26日・27日については、定期点検に伴う欠測。  
 欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
 注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-8

(平成30年7月1日～9月30日)

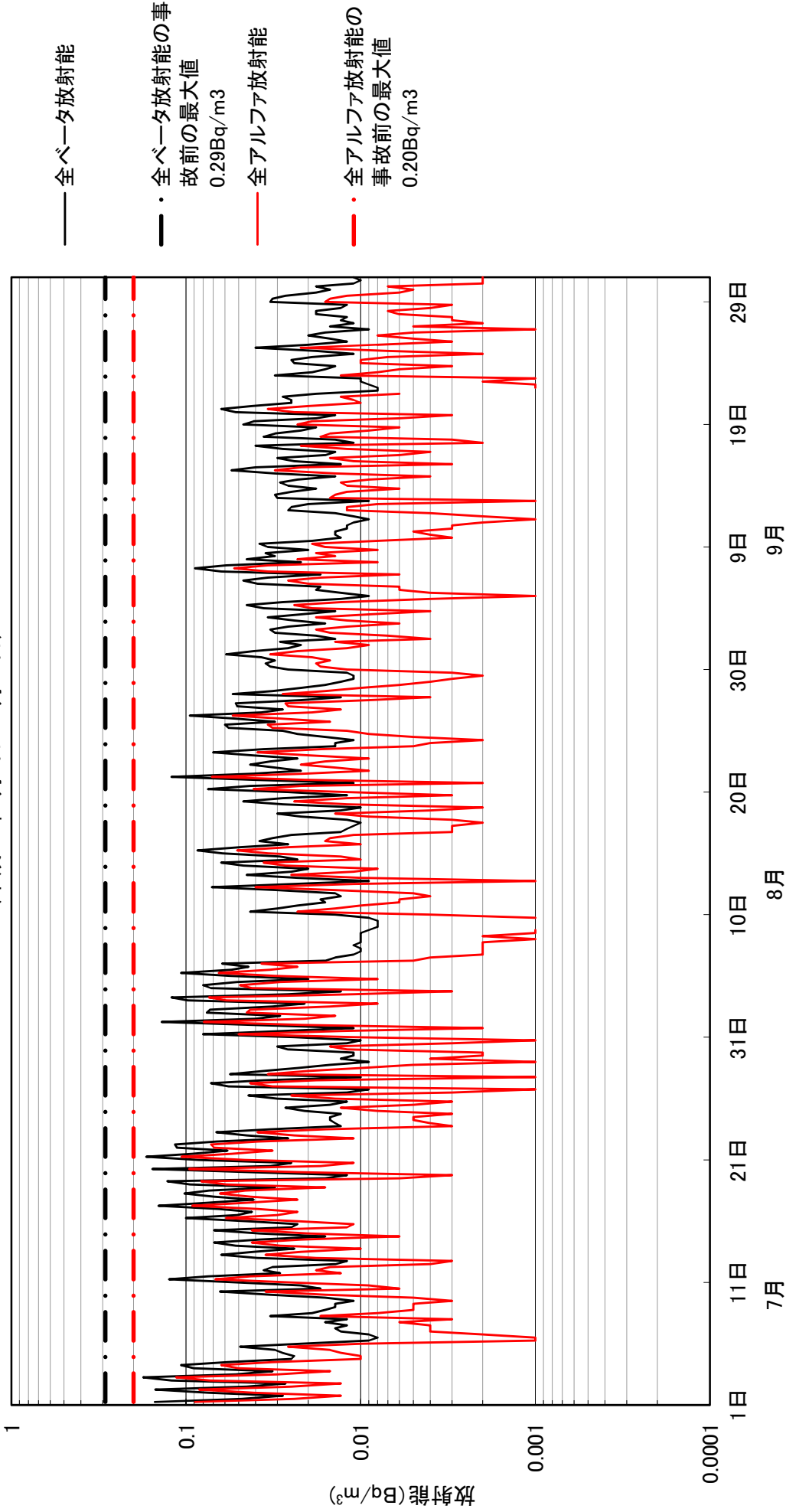


7月23日・24日については、定期点検に伴う欠測。  
 欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
 注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-1

(平成30年7月1日～9月30日)

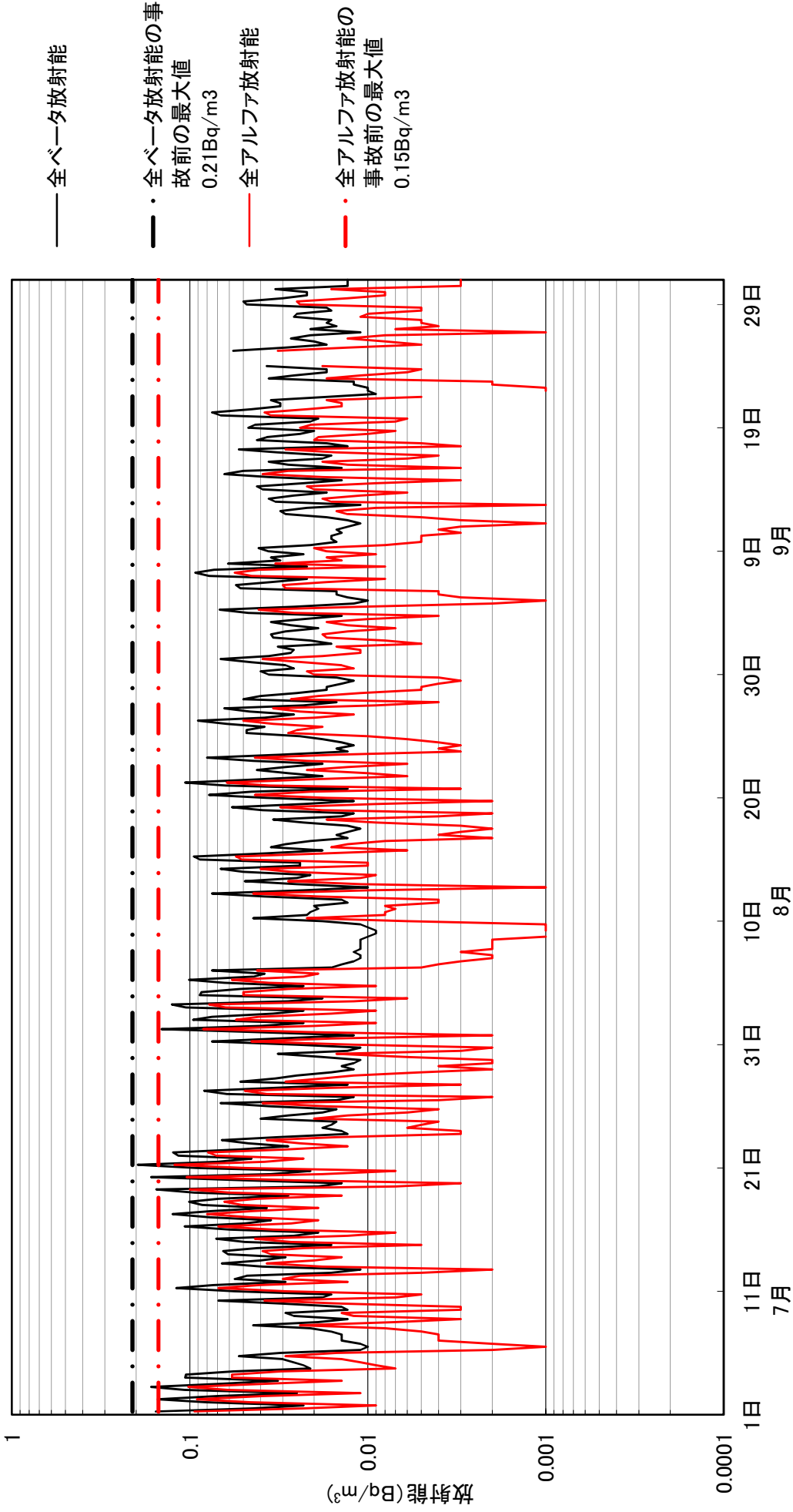


欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事案が発生していないことを確認している。

注) 全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

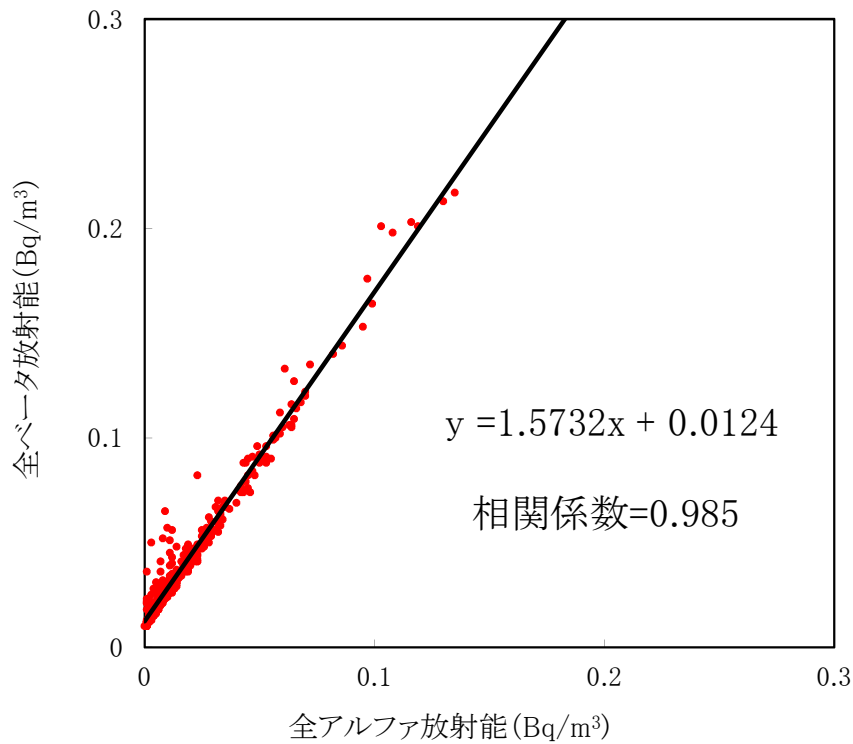
MP-7  
(平成30年7月1日～9月30日)



9月24日は、電源点検に伴う欠測。  
 欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事案が発生していないことを確認している。  
 注) 全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

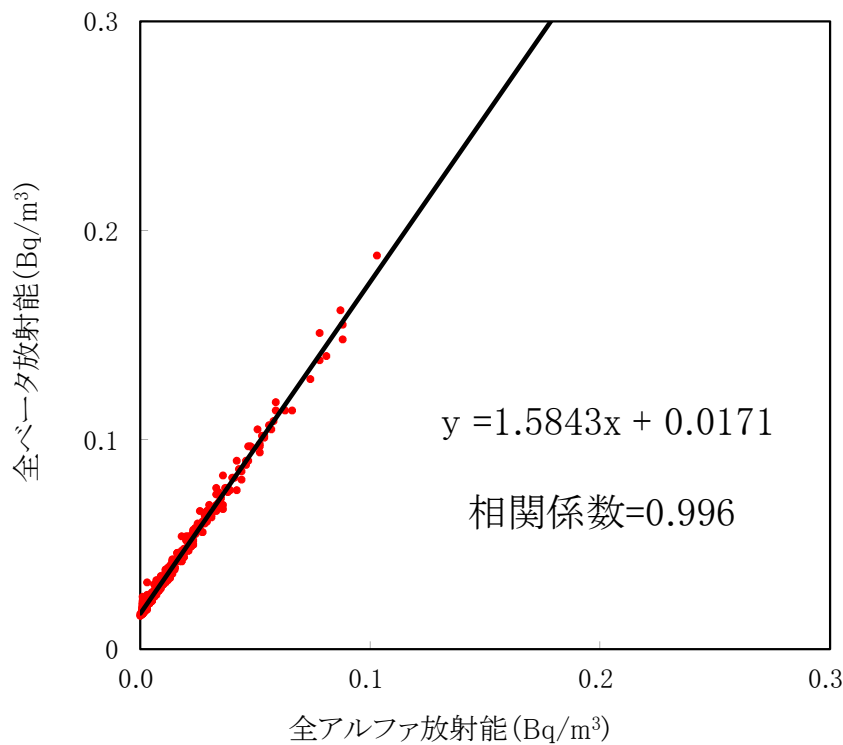


大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-3)  
(平成30年7月～9月)



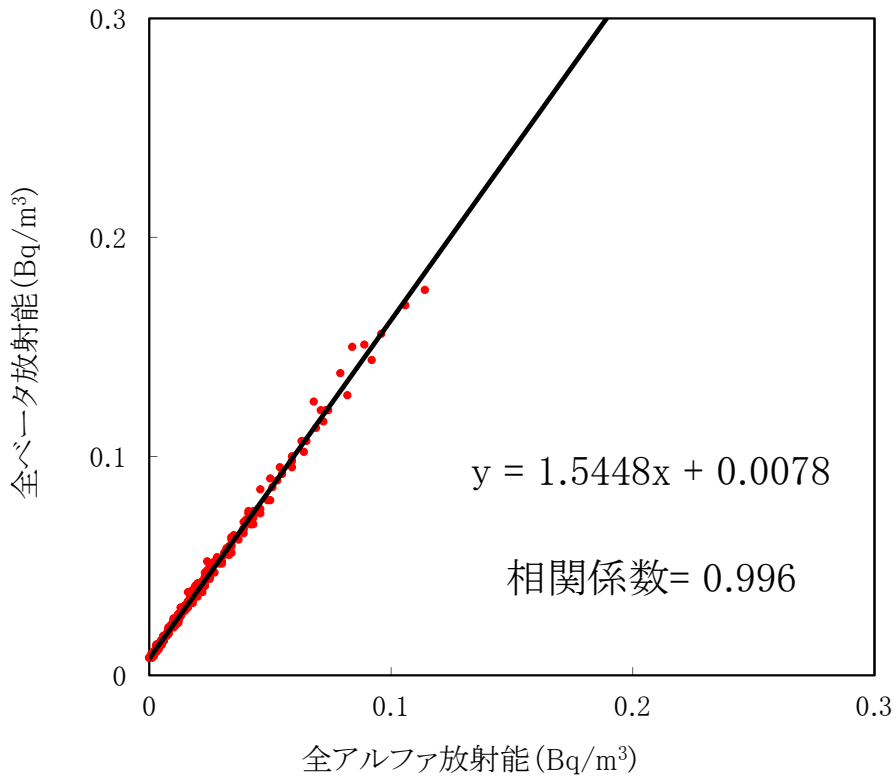
※全アルファ・全ベータの相関から外れた試料については個別に核種濃度を測定している。この結果、濃度は低いがCs-134とCs-137が検出され、その他の核種は検出されていないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-8)  
(平成30年7月～9月)

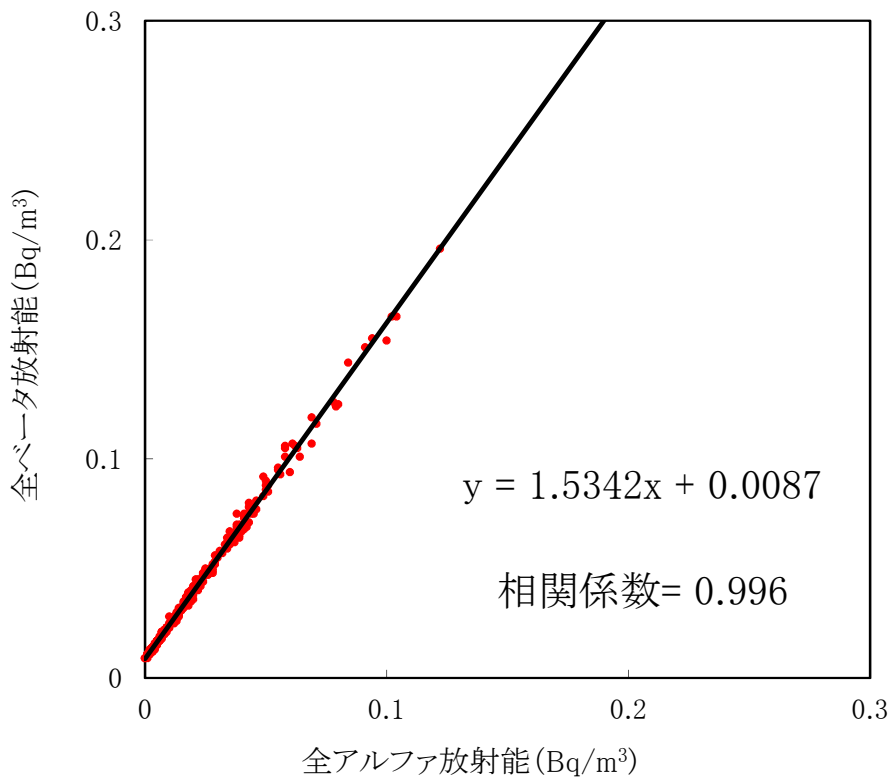


※全アルファ・全ベータの相関から外れた試料については個別に核種濃度を測定している。この結果、濃度は低いがCs-134とCs-137が検出され、その他の核種は検出されていないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-1)  
 (平成30年7月～9月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-7)  
 (平成30年7月～9月)



＜参考＞地下水バイパスの評価

(第2四半期:平成30年7月1日～平成30年9月30日)

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
地下水バイパス	ND	ND	ND	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)[排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 <sup>90</sup> Srは全βでの評価値である。なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 <sup>134</sup> Cs、 <sup>137</sup> Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は5Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は23.374m <sup>3</sup> である。
				<sup>3</sup> H
				2.7 × 10 <sup>9</sup>

＜参考＞サブドレン他浄化設備の処理済水の評価

(第2四半期:平成30年7月1日～平成30年9月30日)

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
サブドレン他 浄化設備の処理済水	ND	ND	ND	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)[排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 <sup>90</sup> Srは全βでの評価値である。なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 <sup>134</sup> Cs、 <sup>137</sup> Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は3Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は50.967m <sup>3</sup> である。
				<sup>3</sup> H
				4.5 × 10 <sup>10</sup>

＜参考＞地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の排水毎の運用目標値

	核種別			備考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	
地下水バイパス	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満 (10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)	1500Bq/L未満
サブドレン他 浄化設備の処理済水	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満 (10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)	1500Bq/L未満
				<sup>3</sup> H

<参考>地下水バイパス排水実績

(平成30年7月1日～平成30年9月30日)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	Cs-134【Bq/L】	Cs-137【Bq/L】	全β【Bq/L】	H-3【Bq/L】
7月5日	1769	<0.68	<0.58	<0.63	120
7月12日	1800	<0.64	<0.58	<0.74	120
7月24日	1731	<0.79	<0.63	<0.70	120
7月31日	1852	<0.44	<0.75	<0.71	120
8月2日	1886	<0.60	<0.68	<0.72	110
8月9日	1657	<0.66	<0.58	<0.73	110
8月17日	1809	<0.74	<0.68	<0.60	110
8月23日	1853	<0.62	<0.46	<0.77	110
8月30日	1778	<0.79	<0.71	<0.69	120
9月6日	1757	<0.40	<0.75	<0.65	120
9月13日	1808	<0.44	<0.63	<0.71	120
9月21日	1809	<0.56	<0.58	<0.70	120
9月28日	1865	<0.67	<0.75	<0.69	110

<参考>サブドレン排水実績

(平成30年7月1日～平成30年9月30日)

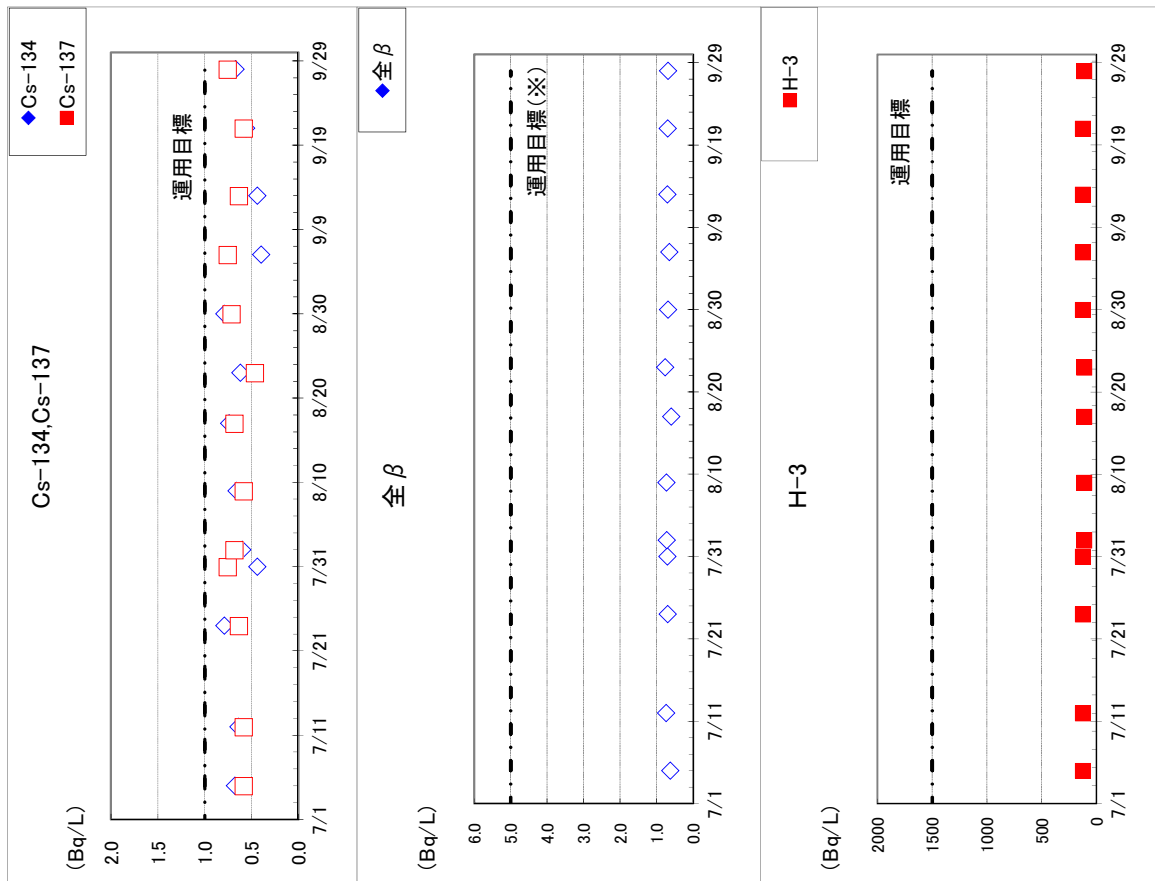
排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	Cs-134【Bq/L】	Cs-137【Bq/L】	全β【Bq/L】	H-3【Bq/L】
7月1日	1001	<0.60	<0.68	<2.7	890
7月3日	1002	<0.49	<0.58	<2.5	930
7月4日	709	<0.71	<0.71	<1.9	950
7月5日	643	<0.67	<0.75	<2.5	970
7月6日	577	<0.65	<0.81	<0.75	920
7月7日	589	<0.58	<0.63	<2.5	960
7月8日	529	<0.68	<0.46	<2.2	900
7月9日	506	<0.66	<0.46	<2.3	950
7月10日	484	<0.51	<0.75	<2.3	910
7月12日	592	<0.63	<0.58	<2.3	970
7月13日	347	<0.62	<0.68	<2.0	920
7月14日	604	<0.65	<0.58	<2.3	890
7月15日	829	<0.62	<0.58	<0.64	770
7月16日	798	<0.62	<0.58	<2.5	780
7月17日	724	<0.66	<0.82	<2.4	890
7月18日	674	<0.74	<0.75	<2.2	920
7月19日	624	<0.62	<0.63	<2.3	1000
7月21日	729	<0.74	<0.58	<2.5	970
7月22日	693	<0.81	<0.58	<2.4	870
7月23日	685	<0.54	<0.63	<2.5	860
7月24日	655	<0.74	<0.63	<0.74	870
7月25日	618	<0.68	<0.58	<2.5	890
7月26日	625	<0.58	<0.75	<2.3	900
7月27日	623	<0.60	<0.63	<2.0	890
7月28日	566	<0.63	<0.53	<2.1	830
7月30日	546	<0.74	<0.58	<2.1	830
7月31日	484	<0.68	<0.53	<2.0	860
8月1日	297	<0.55	<0.46	<0.79	900
8月2日	321	<0.62	<0.46	<2.6	840
8月3日	336	<0.52	<0.58	<2.2	900
8月4日	493	<0.59	<0.63	<2.2	830
8月5日	625	<0.60	<0.53	<2.1	770
8月6日	549	<0.56	<0.68	<0.64	790
8月8日	530	<0.60	<0.46	<2.2	830
8月9日	506	<0.49	<0.53	<2.5	830
8月10日	513	<0.65	<0.75	<2.1	850
8月11日	516	<0.63	<0.63	<2.2	760
8月12日	488	<0.63	<0.68	<2.1	770
8月13日	480	<0.76	<0.46	<2.3	770
8月14日	424	<0.63	<0.68	<2.5	850
8月15日	557	<0.59	<0.58	<0.69	900
8月16日	671	<0.68	<0.58	<2.2	770
8月17日	946	<0.79	<0.71	<2.2	630
8月18日	1010	<0.65	<0.71	<2.0	630
8月19日	958	<0.71	<0.71	<2.3	720

<参考>サブドレン排水実績

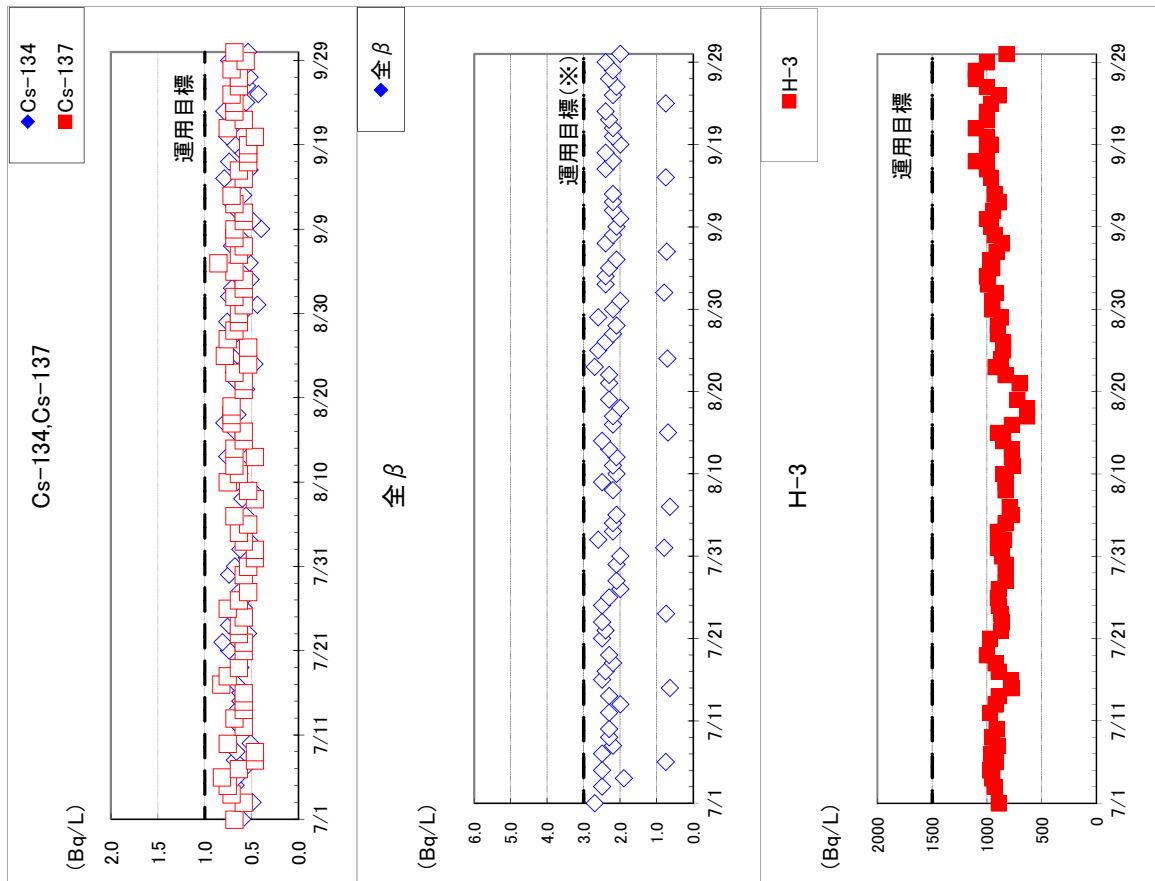
(平成30年7月1日～平成30年9月30日)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	Cs-134【Bq/L】	Cs-137【Bq/L】	全β【Bq/L】	H-3【Bq/L】
8月21日	864	<0.56	<0.58	<2.3	700
8月22日	941	<0.67	<0.58	<2.3	830
8月23日	878	<0.69	<0.68	<2.7	920
8月24日	785	<0.47	<0.53	<0.71	870
8月25日	704	<0.65	<0.78	<2.6	850
8月26日	666	<0.62	<0.53	<2.4	850
8月27日	633	<0.74	<0.75	<2.2	900
8月28日	610	<0.68	<0.68	<2.1	900
8月29日	526	<0.76	<0.63	<2.6	870
8月30日	564	<0.60	<0.63	<2.2	950
8月31日	593	<0.44	<0.58	<2.0	950
9月1日	528	<0.74	<0.68	<0.79	920
9月2日	529	<0.71	<0.58	<2.4	990
9月3日	511	<0.51	<0.58	<2.4	1000
9月4日	515	<0.67	<0.68	<2.3	950
9月5日	522	<0.52	<0.85	<2.1	970
9月6日	589	<0.59	<0.63	<0.72	910
9月7日	543	<0.71	<0.58	<2.4	860
9月8日	501	<0.62	<0.68	<2.2	930
9月9日	485	<0.40	<0.68	<2.1	960
9月10日	487	<0.49	<0.58	<2.0	1000
9月11日	487	<0.64	<0.58	<2.2	940
9月12日	479	<0.71	<0.68	<2.2	890
9月13日	519	<0.59	<0.71	<2.2	930
9月15日	575	<0.79	<0.58	<0.75	960
9月16日	526	<0.52	<0.63	<2.4	1000
9月17日	508	<0.74	<0.53	<2.2	1100
9月18日	521	<0.59	<0.53	<2.4	1000
9月19日	581	<0.68	<0.53	<2.0	960
9月20日	561	<0.76	<0.46	<2.2	1000
9月21日	595	<0.71	<0.75	<2.2	1100
9月22日	544	<0.65	<0.58	<2.3	1000
9月23日	564	<0.79	<0.68	<2.4	1000
9月24日	520	<0.56	<0.68	<0.75	960
9月25日	505	<0.43	<0.71	<2.2	890
9月26日	528	<0.55	<0.63	<2.1	1000
9月27日	494	<0.52	<0.63	<2.3	1100
9月28日	487	<0.59	<0.71	<2.2	1100
9月29日	577	<0.74	<0.56	<2.4	1000
9月30日	746	<0.54	<0.68	<2.0	820

地下水バイパス排水実績(平成30年7月～平成30年9月)

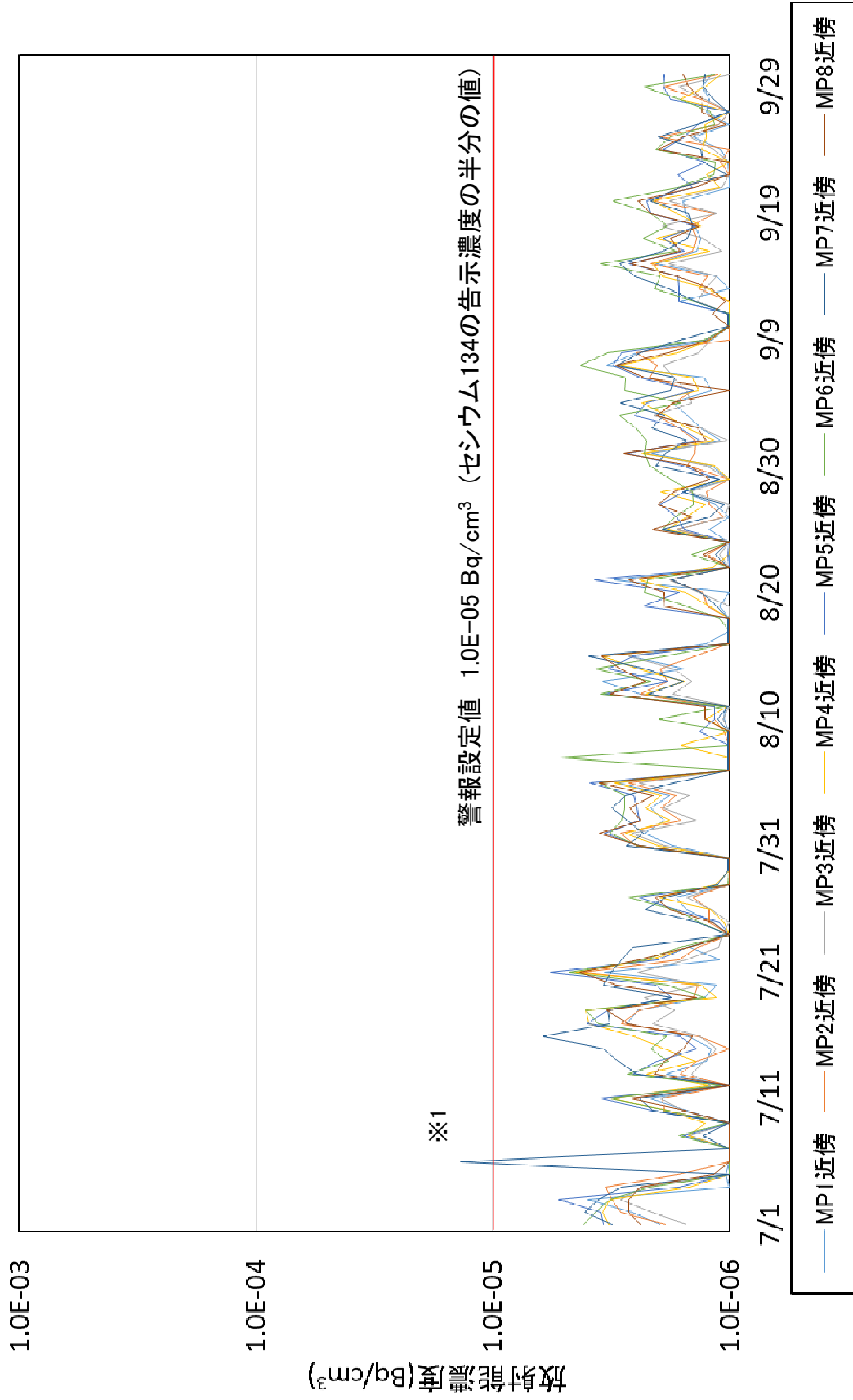


サブドレン排水実績(平成30年7月～平成30年9月)



\*: 白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。  
 ※: 10日に1回程度の分析では、検出限界値を1Bq/Lに下げて実施

# ＜参考＞福島第一原子力発電所 敷地境界近傍ダストモニタ指示値 (2018/7/1～2018/9/30)



※:7/6:MP-7近傍連続ダストモニタで放射能高警報が発生した。核種分析の結果、放射能は検出されていないため、原因については誤計数が発生した可能性が考えられる。  
 グラフ値は日最大値を記載(5分正時の値)